

佐賀市文化財調査報告書第27集

来迎寺遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

佐賀市文化財調査報告書第27集

来迎寺遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

この報告書は、松尾学園弘学館の学寮及び運動施設建設に伴い発掘調査を実施した、来迎寺遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、縄文時代の遺構・遺物を中心に、弥生時代、奈良・平安時代の遺構・遺物を検出しました。

この周辺の遺跡の多くが、縄文時代から近世にかけての複合遺跡として知られていますが、今回の調査地点のように狭い範囲において、縄文時代の遺物が集中する形で検出される例は多くはありません。主な出土遺物は、縄文土器（浅鉢・深鉢・甕）、打製石器（石鏃・刃器・石斧）、弥生土器（甕・壺）、磨製石器（石包丁・石斧）などがあります。

これらの遺物のうち、特に縄文時代中期から晩期にかけての土器は、佐賀市域における縄文時代の土器様式の変化を研究するうえで、重要な資料になるものであります。

今後、この成果を、市民の皆さんの歴史習得や研究者の資料収集に有効に活用してゆく所存です。

調査にあたって、ご指導いただきました県文化課をはじめ、ご協力いただいた地元の方々に対しまして深く感謝申し上げます。

平成2年3月

佐賀市教育委員会

教育長 山 田 清 人

例 言

1. 本書は学校法人、松尾学園弘学館の学寮・運動施設建設に伴い、平成元年度に実施した来迎寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は松尾学園弘学館の委託を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在地及び規模等は以下のとおり。

遺跡登録番号	1031・2055・3075・4021	遺 跡 略 号	R K J
調 査 地	金立町大字金立字三本黒木・七本杉	開 発 面 積	12,591㎡
調査対象面積	1,300㎡	調 査 面 積	1,300㎡
遺跡調査番号	0103	調 査 期 間	平成元年4月17日 ～同年5月31日

4. 発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去	株式会社山豊建設
遺構実測	新九州測量設計株式会社
遺構個別実測・写真撮影	加藤元信
遺物復元	馬場恵美子、加藤元信
遺物実測	種浦加代子、加藤元信
製 図	川上晶子、種浦加代子、前山光子、加藤元信

5. 資料整理に際しては、佐賀県教育委員会文化課、松尾吉高、森田孝志両氏のご助言、ご教示を頂いた。
6. 調査・整理記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121番地）で一括収蔵している。巻末の収蔵品目録を参照されたい。
7. 本書の執筆は、福田義彦・加藤元信が行い、分担は文末にこれを明記する。編集は福田・前田達男がこれにあたった。

本文目次

I. 序 説	1	1. 縄文時代の遺構と遺物	10
1. 調査にいたる経過	1	(1) 土壌と遺物	10
2. 調査の組織	1	(2) 包含層出土遺物	13
II. 遺跡の位置と環境	1	2. 弥生時代の遺構と遺物	32
1. 遺跡の位置	1	(1) 遺構と遺物	32
2. 歴史的環境	2	(2) 包含層出土遺物	33
III. 調査の概要	3	3. 奈良・平安時代の遺構と遺物	38
IV. 調査の記録	10	V. 小 結	40

挿 図 目 次

Fig. 1 来迎寺遺跡周辺 遺跡分布図	2	Fig.17 包含層出土遺物実測図(6)	21
Fig. 2 調査地点位置図	4	Fig.18 包含層出土遺物実測図(7)	22
Fig. 3 基本土層図	4	Fig.19 包含層出土遺物実測図(8)	23
Fig. 4 来迎寺遺跡遺構配置図	5	Fig.20 包含層出土遺物実測図(9)	24
Fig. 5 包含層出土遺物平面 及び垂直分布図	6	Fig.21 包含層出土遺物実測図(10)	25
Fig. 6 SK034・035・037・055 出土遺物実測図	10	Fig.22 包含層出土遺物実測図(11)	26
Fig. 7 SK056土壌実測図	11	Fig.23 包含層出土遺物実測図(12)	27
Fig. 8 SK056遺物実測図	11	Fig.24 包含層出土遺物実測図(13)	28
Fig. 9 SK058土壌実測図	12	Fig.25 包含層出土遺物実測図(14)	29
Fig.10 SK058遺物実測図	12	Fig.26 包含層出土遺物実測図(15)	30
Fig.11 SK084・090遺物実測図	13	Fig.27 包含層出土遺物実測図(16)	31
Fig.12 包含層出土遺物実測図(1)	14	Fig.28 SK016土壌実測図	32
Fig.13 包含層出土遺物実測図(2)	15	Fig.29 SK016遺物実測図	32
Fig.14 包含層出土遺物実測図(3)	16	Fig.30 SK091土壌実測図	33
Fig.15 包含層出土遺物実測図(4)	17	Fig.31 SK091遺物実測図	34
Fig.16 包含層出土遺物実測図(5)	18	Fig.32 SR004土壌実測図	34

Fig.33	包含層出土遺物実測図(17) ……	35	Tab. 1	ドットマップ遺物台帳(1) ……	7
Fig.34	包含層出土遺物実測図(18) ……	36	Tab. 2	ドットマップ遺物台帳(2) ……	8
Fig.35	SB092掘立柱建物実測図 ……	38	Tab. 3	ドットマップ遺物台帳(3) ……	9
Fig.36	SB092遺物実測図 ……	38	Tab. 4	弥生時代遺物観察表 ……	37
Fig.37	SD005遺溝実測図 ……	39	Tab. 5	奈良・平安時代遺物観察表 ……	37
Fig.38	SD005遺物実測図 ……	39			

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号つけ、番号の前に遺構分類記号をつけた。分類は以下のとおり。

S A : 柵列	S B : 掘立柱建物	S C : 箱式石棺墓・石蓋土墳墓	
S K : 土塋	S P : 土塋墓・木棺墓	S R : 方形周溝状遺構	
S D : 溝	S E : 井戸	S H : 竪穴住居	S J : 甕棺墓
S S : 支石墓	S T : 古墳	S X : 不明遺構	P : 小穴・柱穴

2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 特に注記のないかぎり、表示した方位はすべて座標北（GN）である。遺構の方位角を表示する場合は30' 単位でこれを行なう。
4. 遺構番号は、本来、調査区ごとの連番号が基本だが、本遺跡においては遺構の絶対数が少ない事、調査区の設定が作業の便宜上の区分にあった為、Ⅰ・Ⅱ区一括の連番号を用いた。
5. Tab 1・2 備考欄中の数値は、左側が杭から北、右側が杭から東への距離を各々表す。

I . 序 説

1. 調査にいたる経過

昭和63年4月28日、学校法人松尾学園から開発計画が佐賀市教育委員会に提出された。それによると開発面積12,591㎡で、学寮及び運動施設等の建設を目的としたものであった。建設予定地は来迎寺遺跡として周知されており、重要な遺跡の存在が推定された。

昭和63年12月5日から7日まで埋蔵文化財確認調査を実施し、その結果、1,300㎡の広がりを持つ遺跡が確認された。そこで佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、学校法人松尾学園の3者で協議を行い、平成元年度に本調査を実施することになった。本調査は平成元年4月17日から開始し、同年5月31日にすべての現場作業を終了した。(福田)

2. 調査の組織

調査主体	佐賀市教育委員会
事務局	佐賀市教育委員会 社会教育課
	社会教育課長 古川靖邦
	社会教育課長補佐兼文化係長 中野和彦
事務吏員	甲木亮一(庶務担当)
	福田義彦(調査担当)
	前田達男(報告書編集担当)
嘱託員	加藤元信(調査担当)
発掘作業員	生田美代子、内村美里、大野ユキエ、後藤美智江、角田千代乃、富永ツヤ子、成富寿子、橋本絹子、原ミチエ、広瀬八重子、広瀬幸子、宮地峰子、村川キクエ
調査協力	地元各位、学校法人松尾学園、佐賀県教育委員会

II . 遺 跡 の 位 置 と 環 境

1. 遺跡の位置

来迎寺遺跡は佐賀市金立町大字金立字三本黒木792-2、字七本杉1729に所在する。佐賀市域の北部に位置し、現況は田であった。今回の調査地点は、金立山南麓から南に派生する舌状丘陵の南端から一段低くなっている水田にあって、丘陵との比高は3mを測る。遺跡の北東部に隣接して溜池があり、調査時の湧水に悩まされた。

本遺跡は、その地形的特徴から、舌状丘陵と舌状丘陵との谷部分であったものと考えられよう。(福田)

2・歴史的環境

本遺跡は採集資料により、古くは昭和32年（1957）にはその存在が知られていたが、本調査が実施されたのは今回が初めてである。本遺跡周辺は埋蔵文化財の包蔵地として周知されている地域である。近接する遺跡の発掘調査例は金立山南麓に集中している。

長崎自動車道建設に伴い調査されたものとしては、西から、三郎山遺跡、長尾遺跡、大門西遺跡、六本黒木遺跡、金立開拓遺跡が、学校建設に伴うものとしては黒土原遺跡が、又、住宅建設に伴う大門遺跡等があげられる。

これらの遺跡は主として、縄文時代から古墳時代にかけて営まれたものであるが、その中でも特に、大門・大門西・金立開拓の各遺跡からは、縄文時代の遺物・遺構が多数検出され、本遺跡に比較的近接していることから、その関連性が注目されるものである。（福田）

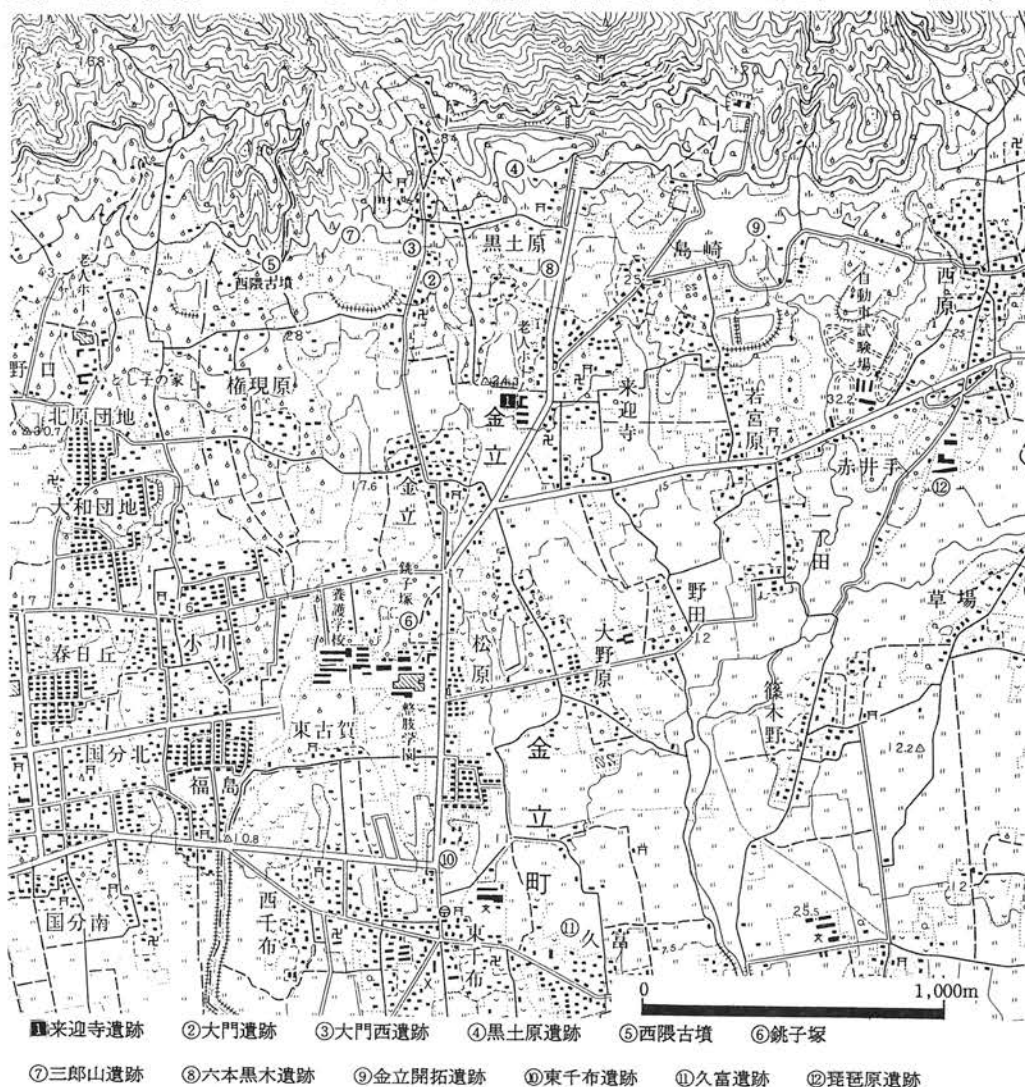


Fig. 1 来迎寺遺跡周辺遺跡分布図（S = 1 / 25,000）

III. 調査の概要

今回の調査地点は、東西長約65m、南北長約25mのいびつな形を呈しており、調査区の設定に苦慮したが、調査区内に任意の基準杭(C-5)を設け、ここから東西南北にそれぞれ5m間隔で杭を派生させ、グリッドを設定した。杭列は、東西軸のものを北から順にA~E、南北軸のものを東から順に1~13とし、杭の北東5m×5mの範囲をその杭の名称グリッドとした。グリッドの軸は磁北から7°20'東側に振れている。

調査に際しては、A~E-7グリッド内にセクションベルトを土提状に掘り残し、基本土層図を作成した。又、セクションベルトを境界として東側をI区・西側をII区に区分したが、これは、飽くまでも作業の便宜上による区分である。

本遺跡における土層の基本層序は、Fig3に示した。1~3層は砂礫を多く混入し、陶磁器片を僅かに含むが、出土状況もまちまちで遺構にも伴わないことから、自然堆積層と考えられる。4・5層は、遺物包含層であるが、これら遺物包含層は、計らずも便宜的に設定したセクションベルトを丁度境とし、I区にのみ認められ、II区においては、3層以下は地山面である砂質土層が検出された。

作業は、バックホウにより4層直上までを掘削し、それ以下を手掘りにより数cmずつ下げ、出土した遺物の1点1点についてドットマップを作製し、平面分布、垂直分布状況を記録した。Fig5に示したものがこれであるが、資料の煩雑化を避けるため、4・5層の堆積が認められた範囲のみについて掲載した。現場作業において記録したドットマップ遺物の総点数は、494点を数え、これらのほとんどが縄文時代の土器・石器であるが、中には弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器片が少なからず混在し、これら弥生時代以降の遺物についてはドットマップ及びTab1・2のドットマップ遺物台帳から削除した。しかしながら、削除したこれらの遺物は縄文時代資料と全く同層位・同レベルから検出され、Fig5に見て取れる通り、遺物の分布状況に何らかの傾向を認める事は困難である。

以上のことから、本遺跡遺物包含層中における縄文時代遺物の在り方は、純粋な堆積状況を示すものではなく、ある程度のローリングを受けた二次的な堆積状況であると考ええる。

I区においては、SD001・SD002・SK091が、4層検出時に確認されたが、他の遺構(土壌・小穴)は、5層中もしくは5層以下より検出された。これらの遺構は、確認面からの掘り込みが全て、5~10cmを計るばかりで、且つ、遺物をもつものがほとんど無かった。従って時期については明らかでないが、覆土が縄文時代の土壌と同じ暗褐色・暗灰色土を基調としている事や、検出された層位等から、概ね縄文時代に帰属するものと考えられる。SD001・SD002からは縄文土器・弥生土器・須恵器等が出土した。覆土は褐色土、確認面からの掘り込みは25~30cm。時期については詳らかにできないが、SD002はSK091(弥生時代中期)を切っており、

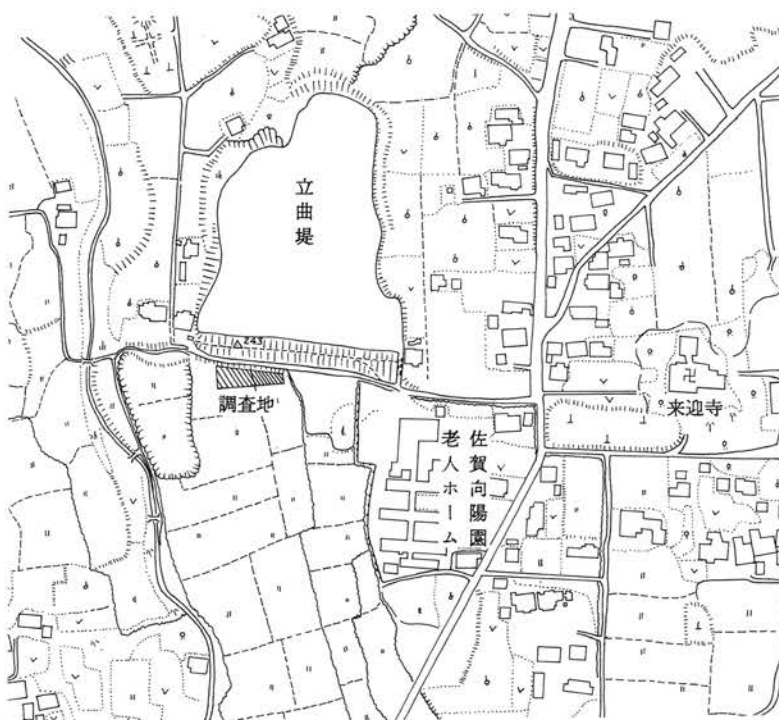


Fig. 2 調査地点位置図 (S = 1 / 5,000)

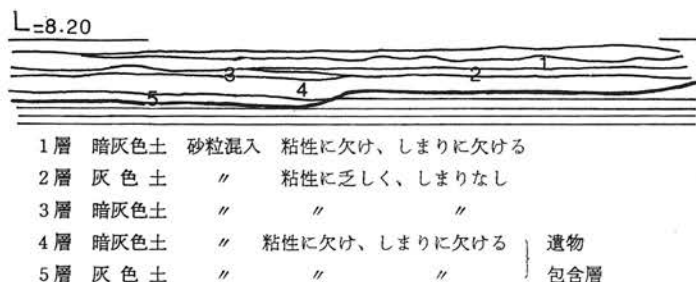


Fig. 3 基本土層図

点ドット記録を原則としたが、水の汲み出し作業等により元位置を離れ、目的が必ずしも果たせなかった。調査の難しさを再認識し、今後の課題としたい。

(加藤)

それ以降の時期と考える。

II区検出の土壌・小穴についてもI区検出のそれと同様である。SD003は遺構確認面からの掘り込みが約20cm、褐色土を覆土とする。弥生土器の小破片が出土しているが、帰属時期については不明である。

遺構・遺物の事実記載は、本来IV章において記述すべきであるが、本遺跡の遺構・遺物の主体が縄文時代のそれであることや、報告書ページ数の制約等もあって、縄文時代資料の掲載を優先し、時期不明なものは上述するに止め、実測図等については割愛した。

II章で触れた如く、調査時には、夥しい湧水、度重なる降雨に悩まされた。包含層出土遺物は全

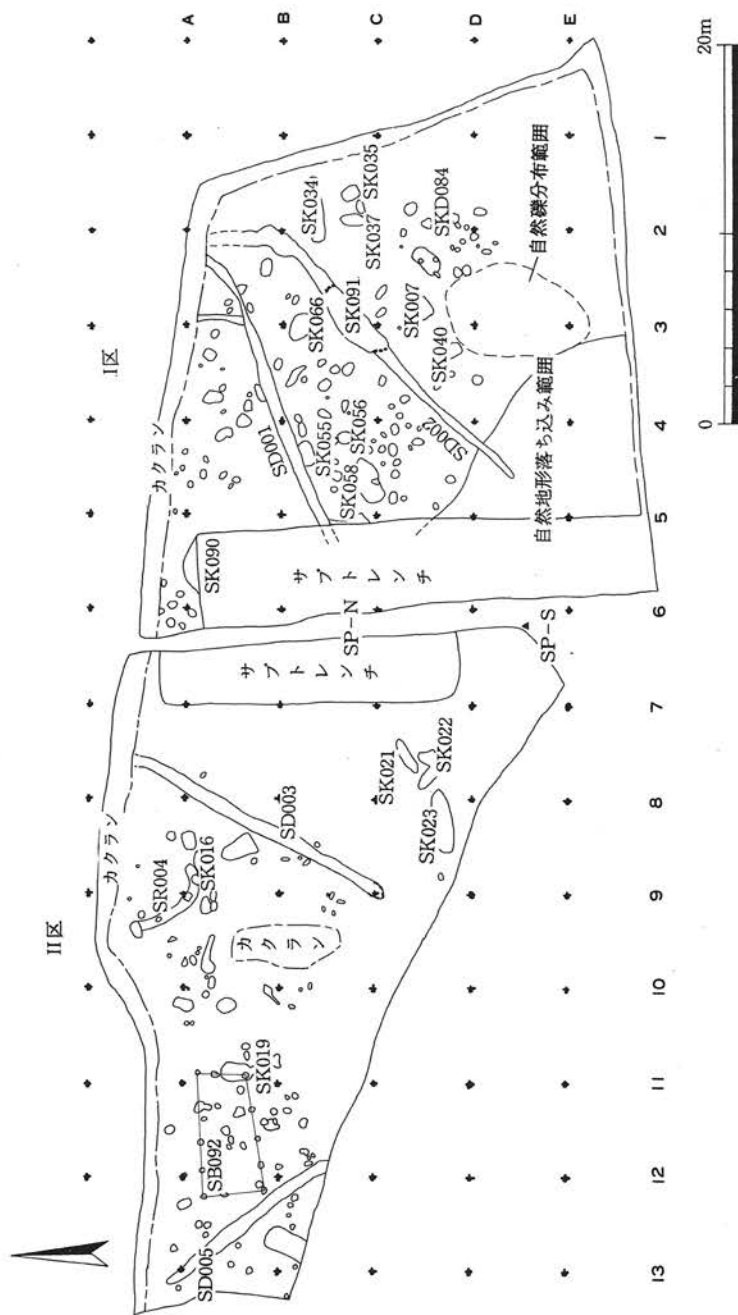


Fig. 4 来迎寺遺跡遺構配置図 (S = 1 / 400)

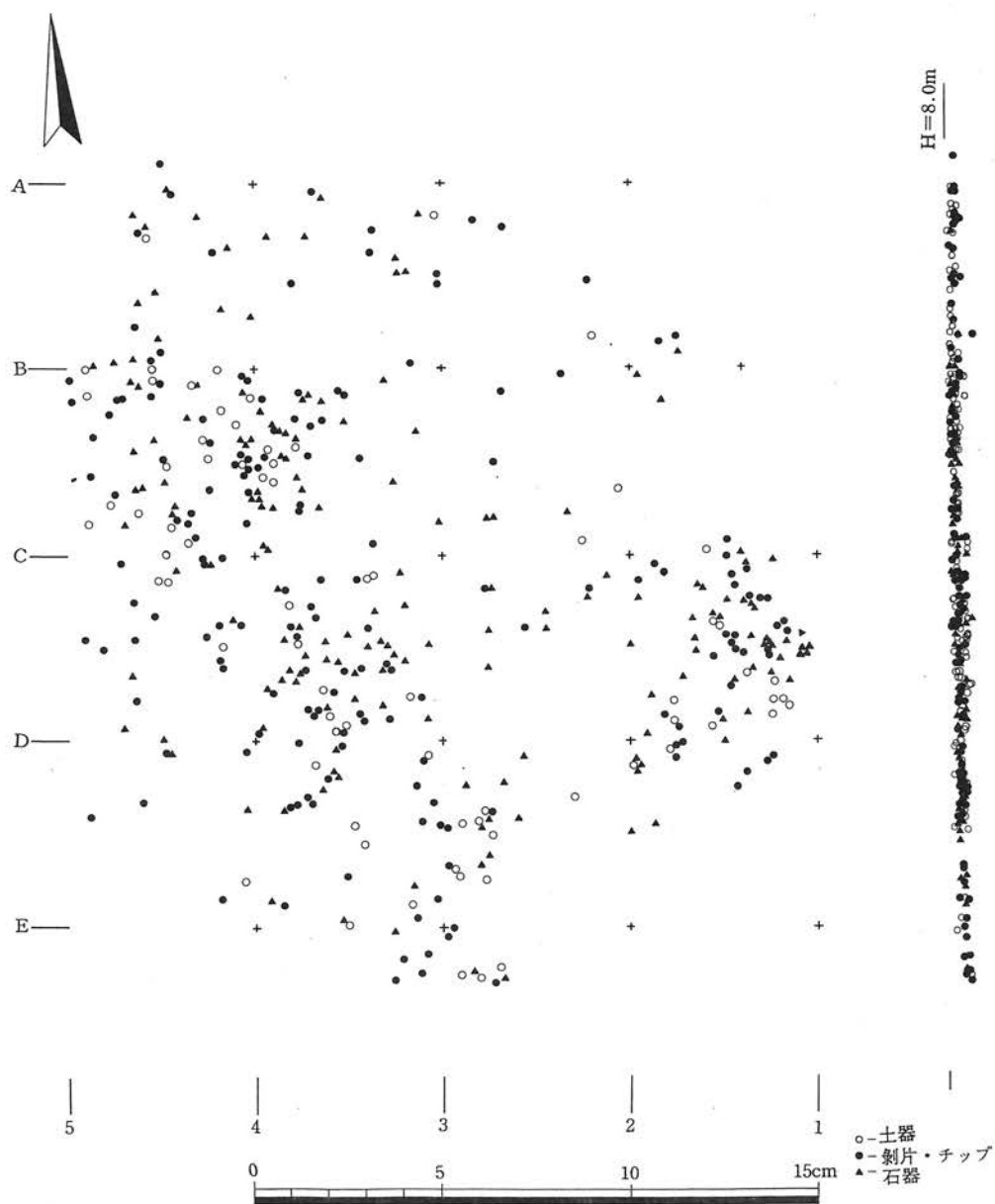


Fig. 5 包含層出土遺物平面及び垂直分布図 (S = 1 / 200)

No	眼高	読み値(mm)	種 別	グリット名	備考	備考	No	眼高	読み値(mm)	種 別	グリット名	備考	備考
1	9.00m	137	縄文土器	B2G	45	130	76	9.00m	119	チップ(黒礫石)	C4G	132	123
2	#	135	チップ(安山岩)	#	75	80	78	#	122.5	チップ(黒礫石)	D4G	438	296
3	#	136	チップ(安山岩)	C2G	0	245	79	#	121.5	チップ(安山岩)	#	440	265
4	#	136	チップ(安山岩)	D2G	470	67	80	#	119	縦長剥片(黒礫石)	#	444	305
5	#	137	チップ(安山岩)	#	438	20	81	#	120	縦長剥片(黒礫石)	#	440	300
6	#	137	縄文土器	#	385	20	82	#	129.5	縄文土器	#	455	390
7	#	136	チップ(安山岩)	#	436	265	83	#	126.5	チップ(黒礫石)	#	310	94
8	#	137	磨製石斧(砂岩)	#	415	270	84	#	129	チップ(黒礫石)	#	274	112
9	#	134	チップ(安山岩)	#	380	348	85	#	126.5	縄文土器	#	220	190
10	#	133.5	チップ(安山岩)	#	380	352	86	#	128.5	チップ(安山岩)	#	186	235
11	#	134.5	縄文土器	#	370	255	87	#	125.5	チップ(黒礫石)	#	210	350
12	#	134.5	縄文土器	#	320	220	88	#	130	剥片チップ(安山岩)	#	140	180
13	#	135.5	縄文土器	#	326	165	89	#	130.5	横長剥片(安山岩)	#	85	200
14	#	134	横長剥片(安山岩)	#	285	265	90	#	130	縄文土器	#	115	265
15	#	136	縄文土器	#	274	170	91	#	131.5	チップ(黒礫石)	#	120	440
16	#	136	削器(安山岩)	#	240	182	92	#	127	縦長剥片(黒礫石)	#	116	415
17	#	136	チップ(安山岩)	#	225	225	93	#	130	チップ(黒礫石)	#	20	213
18	#	133	チップ(安山岩)	#	305	395	94	#	133.5	チップ(黒礫石)	#	34	243
19	#	133.5	横長剥片(安山岩)	#	295	410	98	#	132.5	縄文土器	E4G	475	215
20	#	137	縄文土器	#	220	400	99	#	134.5	削器(安山岩)	#	440	175
21	#	135.5	チップ(安山岩)	#	230	370	100	#	138	チップ(安山岩)	#	65	75
22	#	137	縄文土器	#	195	330	101	#	136	チップ(安山岩)	#	295	450
23	#	136.5	縄文土器	#	180	375	102	#	139	縄文土器	#	20	245
24	#	137	縄文土器	#	170	155	103	#	136	縄文土器	F4G	490	372
25	#	140	横長剥片(安山岩)	#	105	115	104	#	138.5	縄文土器	E4G	75	40
26	#	140	横長剥片(安山岩)	#	40	120	105	#	122.5	チップ(安山岩)	A5G	60	250
27	#	136.5	縄文土器	#	65	250	106	#	120	縄文土器	B5G	485	273
28	#	136.5	縄文土器	#	80	305	107	#	120	チップ(黒礫石)	#	464	290
29	#	139.5	横長剥片(黒礫石)	#	105	390	108	#	121	縄文土器	#	416	170
30	#	138	縦長剥片(黒礫石)	#	106	415	109	#	119	縄文土器	#	390	206
31	#	140	縄文土器	#	120	45	110	#	118	縄文土器	#	410	350
32	#	126	剥片(安山岩)	B3G	400	90	111	#	120	礫(花崗岩)	#	370	195
33	#	128	磨製石斧(砂岩)	#	390	175	112	#	118.5	石炭(黒礫石)	#	357	207
34	#	141	横長剥片(安山岩)	#	245	390	114	#	116	チップ(安山岩)	#	320	398
35	9.00m	141	礫(緑泥片岩)	C3G	435	155	115	9.00m	116	縄文土器	B5G	330	430
36	#	133	縄文土器	C4G	465	345	118	#	118	礫(緑泥片岩)	#	180	190
37	#	128.5	チップ(黒礫石)	C3G	190	470	119	#	117	縄文土器	#	204	238
38	#	133	縄文土器	D3G	200	140	120	#	120	礫(緑泥片岩)	#	115	180
39	#	120	横長剥片(安山岩)	B4G	480	165	121	#	119	縄文土器	#	110	186
40	#	118.5	縄文土器	#	465	183	124	#	114	縄文土器	#	160	405
41	#	120.5	チップ(安山岩)	#	380	320	125	#	116.5	縄文土器	#	140	490
42	#	123.5	縄文土器	#	410	440	127	#	118	縄文土器	#	85	245
43	#	124	剥片(安山岩)	#	414	480	128	#	117.5	チップ(安山岩)	#	50	254
44	#	121	縄文土器	#	300	380	129	#	118.5	チップ(安山岩)	#	25	226
45	#	120	縦長剥片(黒礫石)	#	320	309	130	#	119.5	縄文土器	#	25	175
46	#	118.5	縄文土器	#	360	140	131	#	121	縄文土器	#	20	130
47	#	117	縄文土器	#	350	35	132	#	122	縄文土器	#	3	75
48	#	117.5	チップ(安山岩)	#	230	100	133	#	122	剥片(安山岩)	#	0	50
49	#	127.5	チップ(安山岩)	D2G	314	402	134	#	135	横長剥片(安山岩)	B3G	94	400
50	#	121	縄文土器	B4G	266	385	135	#	118	縦長剥片(黒礫石)	B5G	0	226
51	#	122	縄文土器	#	268	410	136	#	120	縄文土器	C5G	465	165
52	#	125.5	チップ(黒礫石)	#	254	490	137	#	119	縄文土器	#	450	195
53	#	125.5	縄文土器	#	230	490	140	#	119	縄文土器	#	440	470
54	#	133	チップ(黒礫石)	#	15	418	141	#	118	チップ(安山岩)	#	425	225
55	#	120.5	チップ(安山岩)	C5G	422	490	142	#	121	横長剥片(安山岩)	#	415	140
56	#	120	つまみ形石器(黒礫石)	C4G	420	20	143	#	119	チップ(黒礫石)	#	416	145
57	#	116.5	チップ(黒礫石)	#	438	120	144	#	121	チップ(黒礫石)	#	385	105
58	#	116	チップ(安山岩)	#	430	225	145	#	121	チップ(安山岩)	#	384	405
59	#	115.5	礫(砂岩)	#	430	240	146	#	122.5	チップ(安山岩)	#	344	450
60	#	118.5	チップ(安山岩)	#	350	180	149	#	120	チップ(安山岩)	#	270	263
61	#	122	縄文土器	#	265	70	150	#	121	チップ(黒礫石)	#	267	265
62	#	121	縄文土器	#	260	80	152	#	119.5	チップ(安山岩)	#	265	468
63	#	120	チップ(安山岩)	#	275	130	153	#	118	削器(安山岩)	#	240	467
64	#	116	礫(花崗岩)	#	260	280	156	#	123	チップ(黒礫石)	#	170	125
65	#	130.5	縄文土器	#	330	435	157	#	126	チップ(安山岩)	#	86	56
66	#	129	チップ(黒礫石)	#	200	370	161	9.00m	119	礫(玄武岩)	C5G	95	320
67	#	119	縄文土器	#	175	130	162	#	118.5	チップ(安山岩)	#	113	335
68	#	118	チップ(黒礫石)	#	135	125	167	#	120.5	チップ(安山岩)	#	47	335

Tab. 1 ドットマップ台帳(1)

No.	眼高	読み値(㎝)	種 別	グリッド名	備考	No.	眼高	読み値(㎝)	種 別	グリッド名	備考
169	*	125.5	チップ(安山岩)	D5G	447 136	249	*	143.5	縄文土器	#	430 10
170	*	122.5	チップ(安山岩)	#	480 356	250	*	152	縄文土器	#	260 0
174	*	128	チップ(安山岩)	#	340 235	251	*	135.5	縄文土器	B3G	30 310
175	*	123	チップ(安山岩)	#	315 400	252	*	134	チップ(安山岩)	C3G	485 315
176	*	124	チップ(安山岩)	#	320 460	253	*	138	石核(安山岩)	#	45 365
177	*	122.5	チップ(黒曜石)	#	260 410	254	*	136	縄文土器	#	216 334
178	*	126	チップ(安山岩)	#	200 410	255	*	138	チップ(安山岩)	#	100 143
181	*	138.5	チップ(黒曜石)	E5G	300 58	256	*	133	縄文土器	D3G	406 146
183	*	136	縄文土器	#	324 476	257	*	133	チップ(安山岩)	#	403 125
184	*	134.5	チップ(安山岩)	#	80 405	260	*	137	縄文土器	#	360 275
186	*	150.5	チップ(黒曜石)	B2G	90 125	261	*	137	チップ(黒曜石)	#	415 390
187	*	149	縄文土器	C2G	447 20	262	*	132	縄文土器	#	450 440
189	*	147	縄文土器	#	405 85	263	*	138	縄文土器	#	300 277
191	*	144.5	チップ(安山岩)	#	83 245	264	*	137	チップ(安山岩)	#	310 220
192	*	148.5	縦長剥片(安山岩)	#	5 200	265	*	140	縄文土器	E3G	457 215
193	*	150.5	縄文土器	#	3 285	266	*	146	横長剥片(安山岩)	#	350 355
194	*	152	縄文土器	D2G	485 358	267	*	137	縄文土器	#	390 160
195	*	150	チップ(安山岩)	#	455 315	268	*	140	縄文土器	#	353 53
196	*	148	縄文土器	#	430 165	269	*	140	チップ(安山岩)	#	313 104
197	*	148	縄文土器	#	410 183	270	*	141.5	チップ(安山岩)	#	312 115
198	*	149	局部磨製石斧(砂岩)	#	455 77	271	*	141	縄文土器	#	297 120
199	*	147.5	縄文土器	#	325 243	272	*	139	チップ(黒曜石)	#	290 84
200	*	149	横長剥片(安山岩)	#	310 225	273	*	141	縄文土器	#	294 200
201	*	149	横長剥片(安山岩)	#	304 230	274	*	142	チップ(安山岩)	#	250 130
202	*	150	磨製石斧(砂岩)	#	387 335	276	*	139.5	縄文土器	#	270 100
203	*	149.5	縄文土器	#	375 326	277	*	141	チップ(安山岩)	#	285 60
204	*	148	縄文土器	#	360 335	278	*	143	チップ(安山岩)	#	130 110
205	*	148.5	縄文土器	#	358 337	279	*	144	チップ(安山岩)	#	145 40
206	*	148	チップ(安山岩)	#	280 290	280	9.00m	141	チップ(安山岩)	E3G	150 35
207	9.00m	149	チップ(黒曜石)	D2G	263 285	286	*	142	チップ(安山岩)	#	270 10
208	*	147	チップ(安山岩)	#	250 300	287	*	121	チップ(安山岩)	C4G	413 177
209	*	148	縄文土器	#	275 420	288	*	122	縄文土器	#	360 342
210	*	149	縄文土器	#	254 378	289	*	121.5	縄文土器	#	432 140
211	*	149	縄文土器	#	253 373	290	*	123.5	縄文土器	#	424 135
213	*	147	縄文土器	#	250 275	300	*	123	縄文土器	#	370 15
214	*	147	チップ(安山岩)	#	250 379	301	*	126	縄文土器	#	330 53
215	*	147	縄文土器	#	245 372	302	*	125	チップ(安山岩)	#	324 55
216	*	147	チップ(黒曜石)	#	255 295	303	*	124.5	縄文土器	#	317 70
217	*	147.5	縄文土器	#	285 350	304	*	124	縄文土器	#	315 75
218	*	147	縄文土器	#	290 460	305	*	124	縦長剥片(安山岩)	#	347 108
220	*	149	縄文土器	#	230 445	307	*	123.5	チップ(安山岩)	#	350 154
221	*	148	縄文土器	#	226 447	308	*	122	縄文土器	#	310 105
222	*	144	縄文土器	#	228 452	309	*	123	縦長剥片(黒曜石)	#	297 107
223	*	143	縄文土器	#	224 451	310	*	124	横長剥片(安山岩)	#	285 55
224	*	144	削器(安山岩)	#	190 315	311	*	125.5	チップ(安山岩)	#	266 35
225	*	150	縄文土器	#	165 285	312	*	125	石核(安山岩)	#	244 54
226	*	150	チップ(安山岩)	#	153 275	313	*	126	チップ(安山岩)	#	243 3
227	*	151	縄文土器	#	160 325	314	*	125	石核(安山岩)	#	206 10
228	*	151	剥片(安山岩)	#	160 293	315	*	124.5	縄文土器	#	177 5
229	*	151.5	縄文土器	#	105 423	316	*	125	横長剥片(安山岩)	#	200 51
230	*	150	横長剥片(安山岩)	#	95 423	317	*	124	縄文土器	#	215 110
231	*	152	横長剥片(安山岩)	#	74 385	318	*	124	縄文土器	#	130 166
232	*	149	チップ(安山岩)	#	85 240	320	*	124	縄文土器	#	150 9
233	*	150	横長剥片(安山岩)	#	55 220	321	*	123.5	縄文土器	#	128 12
234	*	143	チップ(黒曜石)	#	62 85	322	*	124	縄文土器	#	124 50
235	*	141	剥片・チップ(安山岩)	#	47 115	323	*	123	縄文土器	#	30 20
236	*	144	縄文土器	#	15 43	324	*	124	縄文土器	#	20 25
237	*	142	チップ(安山岩)	E2G	487 115	325	*	124	チップ(安山岩)	#	27 316
238	*	142	チップ(安山岩)	#	492 127	328	*	127	縄文土器	D4G	417 67
239	*	141	剥片(安山岩)	#	492 133	329	*	127	石核(安山岩)	#	415 70
240	*	144	チップ(安山岩)	#	448 110	330	*	128	チップ(安山岩)	#	370 150
241	*	141	縄文土器	D2G	0 253	331	9.00m	129	チップ(安山岩)	D4G	333 167
242	*	142	縦長剥片(安山岩)	E2G	450 370	332	*	131	縄文土器	#	307 117
243	9.00m	142.5	チップ(安山岩)	E2G	444 360	334	*	133	チップ(黒曜石)	#	285 107
245	*	150	剥片(安山岩)	#	387 290	335	*	132.5	縄文土器	#	275 70
246	*	144	縄文土器	#	436 12	337	*	134.5	縄文土器	#	245 130
247	*	144.5	縄文土器	#	434 15	338	*	131	縄文土器	#	267 190
248	*	144	縦長剥片(黒曜石)	#	433 12	339	*	129	縄文土器	#	290 245

Tab. 2 ドットマップ台帳(2)

N ₂	眼高	読み値(㎝)	種 別	グリット名	備考	備考	N ₂	眼高	読み値(㎝)	種 別	グリット名	備考	備考
340	#	125	チップ(安山岩)	#	310	300	434	#	122	剥片(安山岩)	C5G	456	345
341	#	126	縄文土器	#	357	313	435	#	124	チップ(安山岩)	#	465	244
342	#	131	縄文土器	#	363	400	436	#	122.5	チップ(黒曜石)	#	468	230
343	#	132	縄文土器	#	260	460	437	#	126.5	チップ(安山岩)	#	430	55
344	#	130	縄文土器	#	268	350	438	#	126	チップ(安山岩)	#	469	5
345	#	129	縄文土器	#	275	335	439	#	125	チップ(安山岩)	#	413	27
346	#	130	縄文土器	#	237	375	440	#	127.5	チップ(黒曜石)	#	215	60
347	#	131.5	縄文土器	#	213	400	441	#	126	縄文土器	#	275	175
348	#	128	縄文土器	#	260	300	442	#	125	縄文土器	#	306	265
349	#	132	縄文土器	#	217	220	443	#	123	縄文土器	#	350	320
350	#	129.5	チップ(安山岩)	#	200	285	444	#	123.5	縦長剥片(安山岩)	#	310	362
351	#	131	縄文土器	#	194	344	445	#	124.5	縄文土器	#	375	365
352	#	131	剥片(安山岩)	#	196	364	446	#	124	チップ(黒曜石)	#	303	383
353	#	130.5	縄文土器	#	186	268	447	#	125	縄文土器	#	305	465
355	#	134.5	チップ(安山岩)	#	197	126	448	#	123	縄文土器	#	300	472
356	#	136	縄文土器	#	188	123	449	#	125	縄文土器	#	305	472
357	#	134	縄文土器	#	194	95	450	#	123	チップ(黒曜石)	#	245	455
358	#	134	縄文土器	#	170	70	451	#	125	チップ(安山岩)	#	249	469
359	#	133	縄文土器	#	162	104	452	#	123	チップ(安山岩)	#	235	472
360	#	133	縄文土器	#	134	35	453	#	123	チップ(安山岩)	#	228	466
361	#	134	縦長剥片(黒曜石)	#	129	42	454	#	123.5	チップ(安山岩)	#	163	483
362	#	133	縄文土器	#	130	203	455	#	124	縄文土器	#	156	490
363	#	133.5	縄文土器	#	92	190	456	#	123	チップ(安山岩)	#		
364	#	127.5	チップ(黒曜石)	#	93	190	457	#	123	チップ(安山岩)	#		
365	#	138	チップ(黒曜石)	#	30	6	458	#	124	石核(安山岩)	#	259	362
367	#	137	縄文土器	#	45	30	459	9.00m	126cm	縄文土器	C5G	200	255
369	#	138	チップ(安山岩)	#	90	145	460	#	126	縄文土器	#	183	193
370	9.00m	136cm	チップ(安山岩)	D4G	73	163	461	#	126.5	縄文土器	#	182	172
371	#	135	チップ(安山岩)	#	77	168	462	#	127	縄文土器	#	179	162
372	#	138	石核(安山岩)	#	23	235	463	#	128	チップ(黒曜石)	#	135	115
373	#	132	縦長剥片(安山岩)	#	68	281	464	#	126.5	縄文土器	#	91	150
374	#	133.5	チップ(安山岩)	#	47	293	465	#	126	チップ(安山岩)	#	120	188
376	#	133	チップ(安山岩)	#	60	360	467	#	127	縄文土器	#	139	285
377	#	134	縄文土器	#	70	460	468	#	124.5	チップ(安山岩)	#	76	280
379	#	137	ポイント(安山岩)	E4G	485	232	469	#	129	チップ(安山岩)	#	2	163
380	#	139.5	チップ(安山岩)	D4G	0	110	471	#	132	縄文土器	D5G	380	180
381	#	137	チップ(安山岩)	E4G	463	455	472	#	131	チップ(安山岩)	#	426	245
382	#	136	チップ(安山岩)	#	460	450	473	#	130.5	チップ(安山岩)	#	430	270
383	#	140	礫(緑泥片岩)	#	385	410	474	#	130	縄文土器	#	460	295
384	#	138	チップ(安山岩)	#	330	475	475	#	129	縄文土器	#	475	375
385	#	141	石核(黒曜石)	#	278	485	476	#	126	チップ(安山岩)	C5G	0	427
401	#	139	縄文土器	#	420	208	477	#	127	縄文土器	D5G	330	440
402	#	141	石核(安山岩)	#	400	190	478	#	128	チップ(安山岩)	#	285	365
403	#	139.5	縄文土器	#	406	220	479	#	133	石核(黒曜石)	#	280	175
404	#	140.5	チップ(黒曜石)	#	260	265	480	#	136.5	チップ(黒曜石)	#	350	86
405	#	139	チップ(安山岩)	#	230	290	481	#	133.5	縦長剥片(黒曜石)	#	280	46
406	#	141.5	チップ(安山岩)	#	344	135	482	#	133	チップ(安山岩)	#	250	96
407	#	142	チップ(安山岩)	#	350	130	483	#	137	縄文土器	#	180	174
408	#	143	チップ(安山岩)	#	218	100	484	#	131	チップ(黒曜石)	#	213	403
409	#	143	縄文土器	#	210	95	485	#	134	チップ(安山岩)	#	110	175
412	#	146	縄文土器	#	110	420	487	#	137.5	縄文土器	#	33	147
413	#	146	磨製石斧(砂岩)	76	480		488	#	138.5	縄文土器	#	3	259
414	#	146	剥片(安山岩)	#	54	423	489	#	138	チップ(安山岩)	E5G	457	266
415	#	148	チップ(黒曜石)	#	37	429	490	#	138.5	縄文土器	#	478	276
416	#	149.5	チップ(安山岩)	F4G	420	395	491	#	139	縦長剥片(安山岩)	#	480	475
418	#	151	縦長剥片(黒曜石)	#	365	437	492	#	141.5	チップ(黒曜石)	#	126	470
420	#	158	チップ(安山岩)	#	140	240							
421	#	148	チップ(安山岩)	F3G	499	26							
422	#	149.5	チップ(安山岩)	#	470	15							
423	#	153	チップ(安山岩)	#	390	150							
424	9.00m	156cm	チップ(安山岩)	F3G	375	54							
425	#	157	縄文土器	#	380	78							
426	#	158.5	チップ(安山岩)	#	360	95							
427	#	159	縦長剥片(安山岩)	#	354	140							
428	#	158	縄文土器	#	362	160							
429	#	153	石匙(安山岩)	F4G	424	455							
430	#	122	チップ(安山岩)	C5G	470	480							
431	#	122	チップ(安山岩)	#	478	470							

Tab. 3 ドットマップ台帳(3)

IV. 調査の記録

1. 縄文時代の遺構と遺物

(1) 土壌と遺物

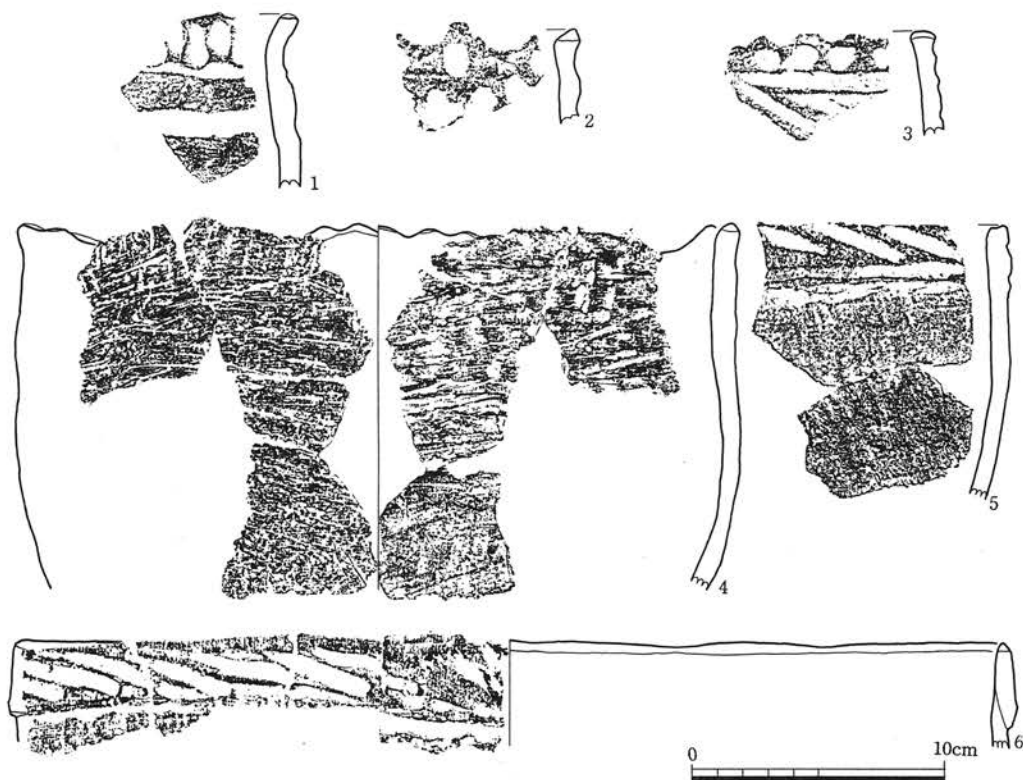


Fig. 6 SK034・035・037・055出土遺物実測図

SK034・SK035・SK037・SK055土壌

SK034はC-2・3グリッド内に位置し、掘り込み約5cm、3.5×0.8mの長方形プランの土壌である。覆土は暗褐色土単一層。Fig 6-1の土器が出土。口唇部、口縁部外面に凹点文、頸部外面に横方向の凹線文を施文、器表面は内外共に、ナデ調整。胎土中に滑石が多量に含まれ、外面に煤が付着する。

SK035はSK034南側に検出され、0.7×0.9mの方形プランを呈し、掘り込みは、5cmに充たない。暗褐色土を覆土とする。Fig 6-2資料が出土した。口唇部上面、口縁部外面に凹点文が施文され、胎土に滑石を含む。内外面共にナデによる調整。

SK037は0.7×1.4mの不整の楕円形プランを有し、C-2グリッドに位置する。掘り込み約5cm。暗褐色土単一層を覆土とする。出土遺物はFig 6-3。器面はナデによって調整され、口唇部、口縁部外面に凹点文を、凹点文直下に横位・斜位の凹線文を施す。微量に滑石を含む。

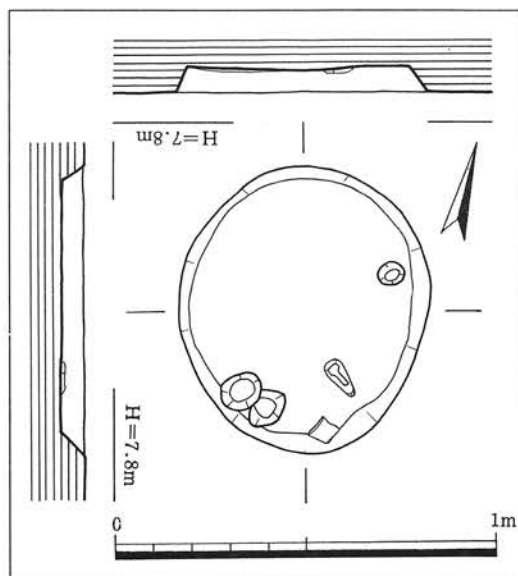


Fig. 7 SK056実測図

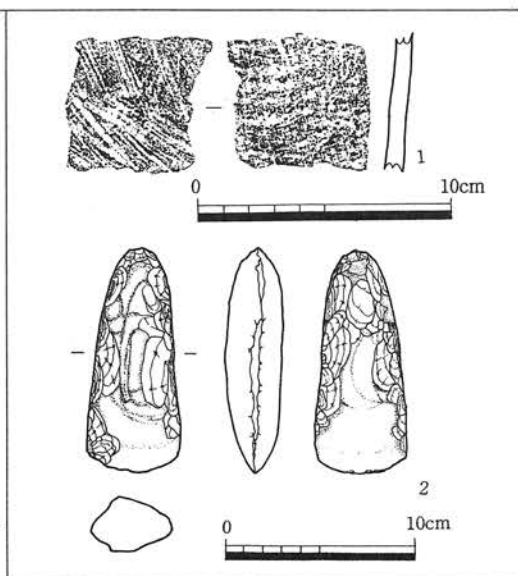


Fig. 8 SK056遺物実測図

SK055は、C-5グリッドより検出された。SD001に切られ、本来の規模・形状は明らかでない。掘り込みは5cmに充たない。覆土は暗褐色土。Fig6-4~6が出土した。4はDM445との接合資料で、復元口径28.4cm、現存器高14.5cmを計る。器面は内外共に横位・斜位のヘラ削りにより調整され、胎土中には多量の滑石が含まれる。5は、口縁部外面に斜位・横位の凹線文を施し、内外面共にナデによる調整。胎土中に滑石を含む。6はDM273・443との接合資料で、復元口径39.4cm、現存器高4.0cmを計る。調整は5に準じ、あるいは同一個体資料かとも思われる。

SK056土壌

C-5グリッドに位置し、東西0.7×南北0.8mの不整円形を呈し、掘り込み約7cm。暗褐色土単一層を覆土とする。Fig8-1・2が出土した。1は胎土に滑石を多量に含み、貝殻条痕により器面を調整する。2は、砂岩を石材とする局部磨製石斧で、全長11.9cm、幅4.8cm、厚さ3.0cmを計る。

SK058土壌

C・D-5グリッドに位置し、2.4×1.25mの不整楕円形を呈す。掘り込みは約10cm、覆土は暗褐色土単一層である。Fig10-1~6が出土した。1は、胎土に滑石を含み、凹線で渦巻文を描出し、又、沈線による区画が為され、区画内には、粗雑な削りが施されている。2は、外面に凹点文を施文する。3は、口唇部に凹点文を、外面に凹線文を施す。4は、口唇部に凹点文を施文、更に瘤状の突起を作出し、頸部外面に横位・斜位の凹線文を施す。5は口縁部破片である。凹線文を施した粘土帯を器面に貼り付け瘤状に隆起させると共に、口唇部を波状に成している。6の底部は裏面にクジラ脊椎骨の痕跡を有する。

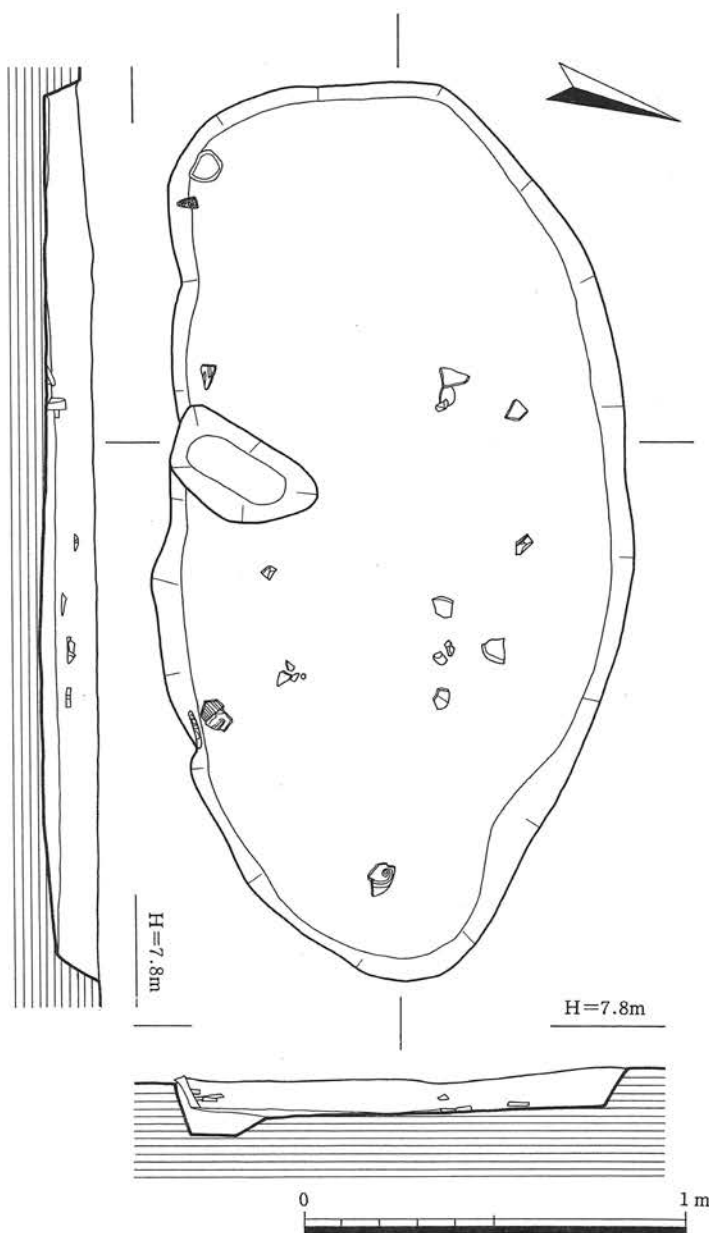


Fig. 9 SK058実測図

SK084・SK090土壌

SK084はD 2 グリッド内検出、一辺0.6mの不整三角形を呈し掘り込みは5cmに充たない。
Fig11-1が出土。口唇部・口縁部外面に凹点文を施文、滑石を微量混入する。

SK090はB 6 グリッドに位置、サブトレンチ設定を誤り、本来の規模・形状が失われた。Fi
g11-2・3が出土。いずれも滑石を含み、凹線による文様を描出している。

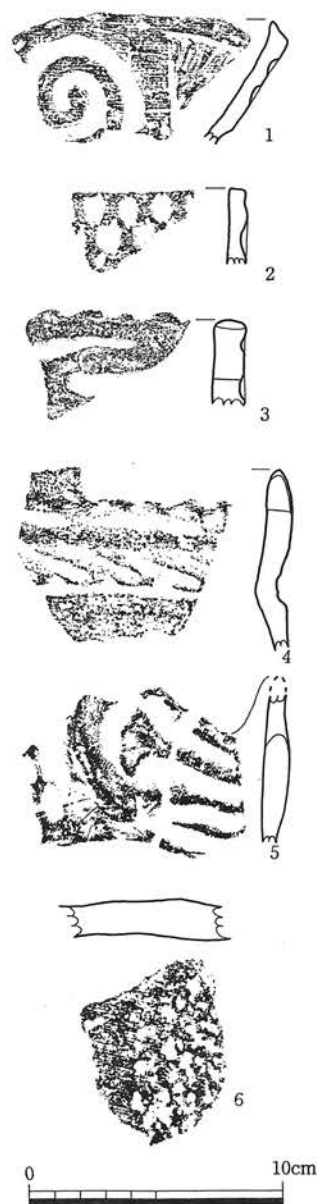


Fig. 10 SK058遺物実測図



Fig.11 SK084・090遺物実測図

(2) 包含層出土遺物

土 器

Fig12-1～24は、胎土中に滑石を含み、器表面はナデ・削りにより調整される。いずれも凹点文・凹線文によって文様を描出し、凹点文が口唇部にまで施されるものとされないもの、凹点文が一段のみと二・三段に及ぶもの、凹線文が施文されるものとされないもの等がある。

1は、DM448とDM449接合資料。内面は斜位のヘラ削り調整。2は、B4グリッド出土資料で調整等が1に酷似し、同一個体資料かとも思われる。3は確認調査時にC・D6グリッド付近より出土。4はC2グリッド出土。5はDM288で、口縁部は波状を為すと思われる。6はB3グリッド、7はA7グリッド、8はC2グリッド、9はD5グリッド、10はA6グリッド出土資料。11はDM6。連点文施文。12・13はA6グリッド、14はD5グリッド、15はA6グリッドより出土。16はDM244。17はDM475。18はB4グリッド出土。19はDM324。20はD5グリッド出土資料。21はDM251。22はD5グリッド、23はE5グリッド、24はE2グリッド出土資料。Fig13-25～51はいずれも胎土中に滑石を混入し、凹点文・凹線文あるいは沈線文により文様を描出している。25はDM187。26はI区出土。27は確認調査時にC・D6グリッド付近から出土。28はC5グリッド出土。29はDM15。30はB4グリッド、31はD5グリッド、32はC2グリッド、33はD4グリッド出土。34はDM442。35はC2グリッド出土。36はDM52、37はDM260。38はC3グリッド、39はC10グリッド、40はB2グリッド、41は確認調査出土資料である。42はDM13。43はA7グリッド、44はF2グリッド出土。45はDM33、46はDM345。47はA6グリッド、48はB4グリッド出土。49はDM335。50はD5グリッド、51はC5グリッド出土資料である。52はI区出土、沈線文を施文。53はDM82。54はE5グリッド、55はD5グリッド出土。56はDM236。57はD5グリッド、58はSD002・B4グリッド出土。59はDM461。60はD5グリッド出土。61はDM218。62はDM110。63はD5グリッド、64はA6グリッド、65はSD001・C5グリッド、66はC4グリッド、67はC5グリッド出土。65・66は外面に細かい擬縄文が施文される。68はDM22。69・70は確認調査出土資料である。Fig15-71～88は粗製土器。71～79は胎土に滑石を含み、調整はナデ・削り。80～88は貝殻条痕による調整。71はC5グリッド、72はSD002・B3グリッド、73はSD002・D4グリッド、74はE5グリッド、75はC5グリッド、76はSD002・C3グリッド、77はSD002・C3グリッド出土。78はDM121。79は

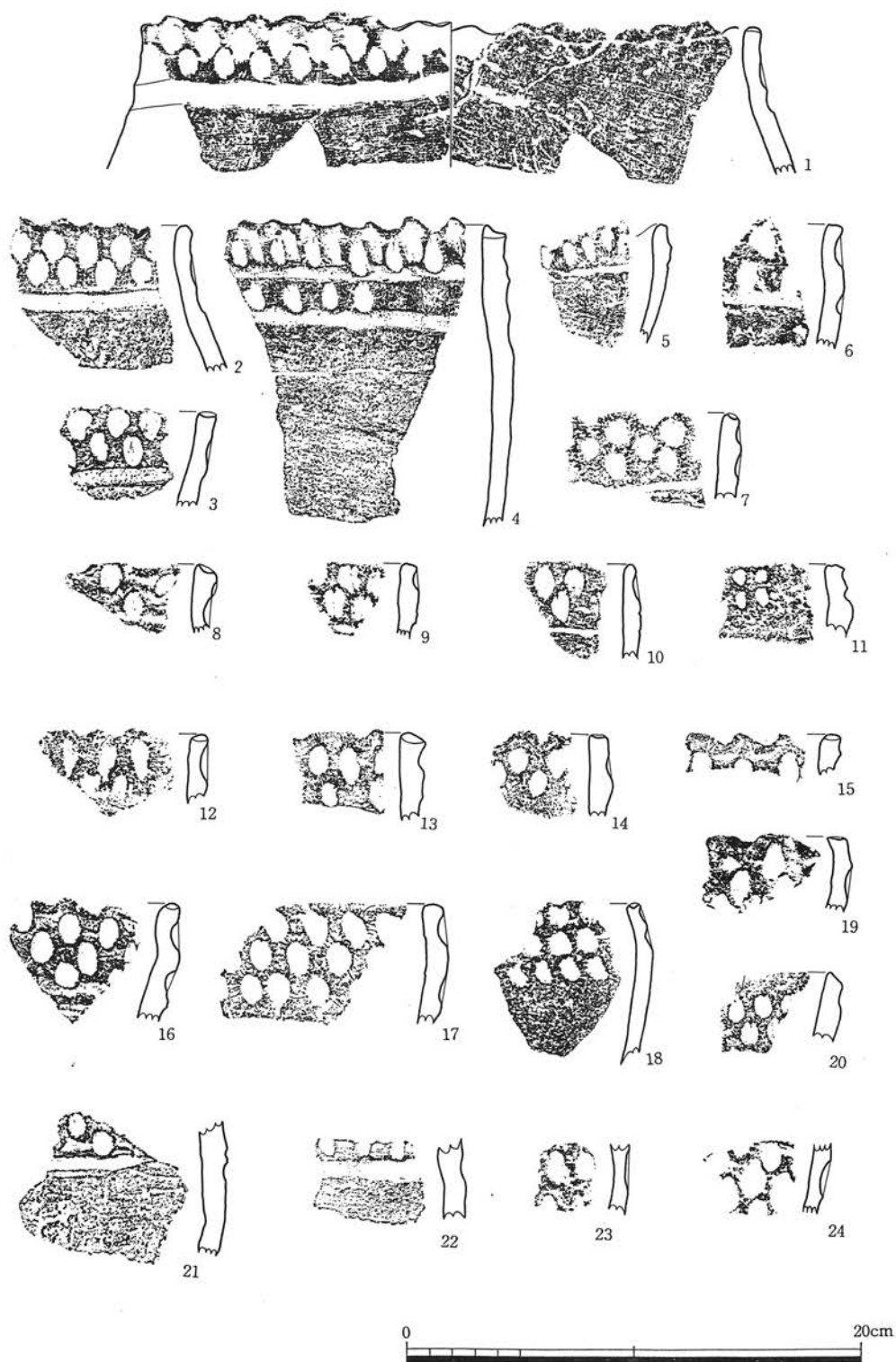


Fig. 12 包含層出土遺物実測図 (1)

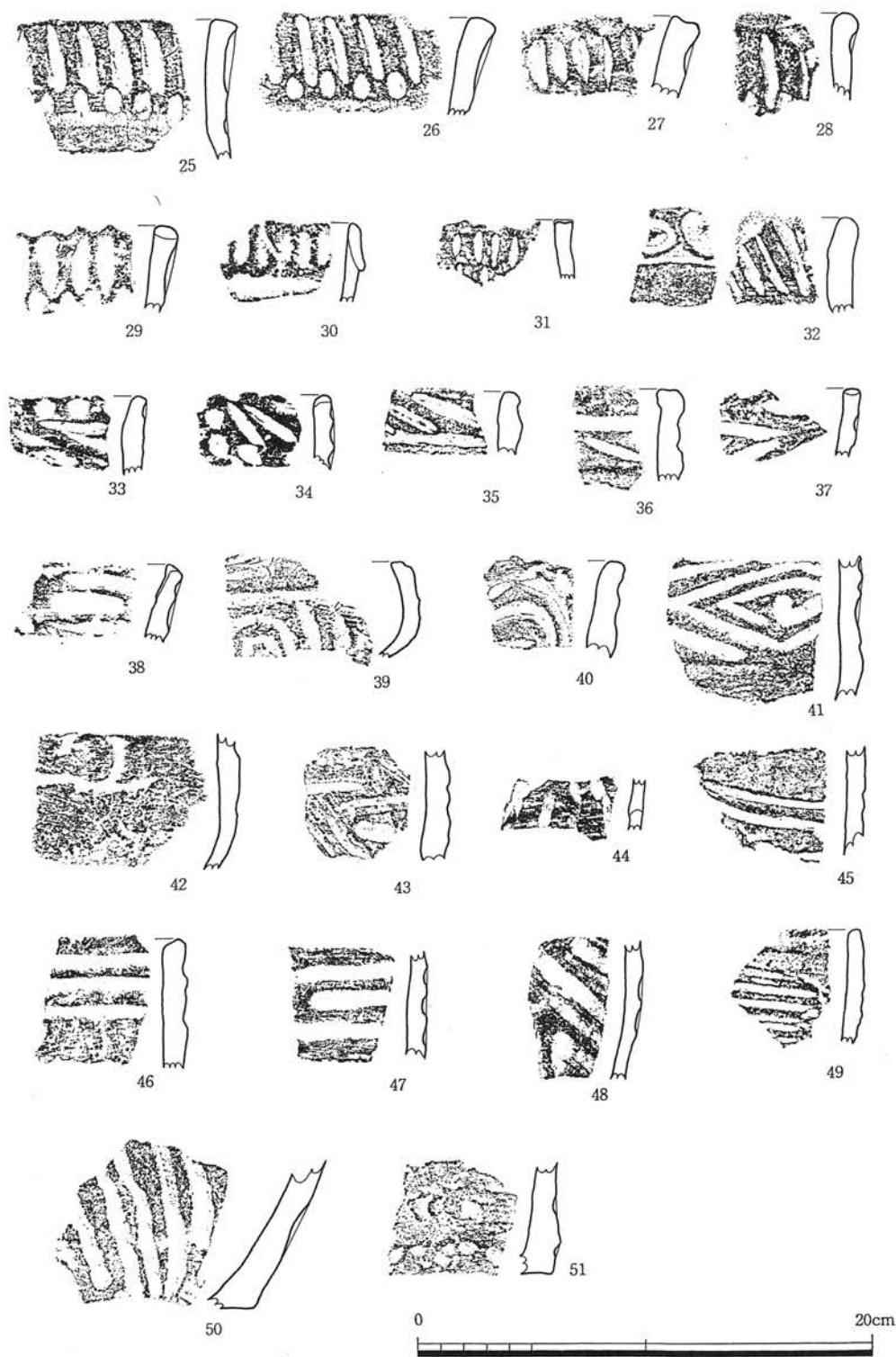


Fig. 13 包含層出土遺物実測図 (2)

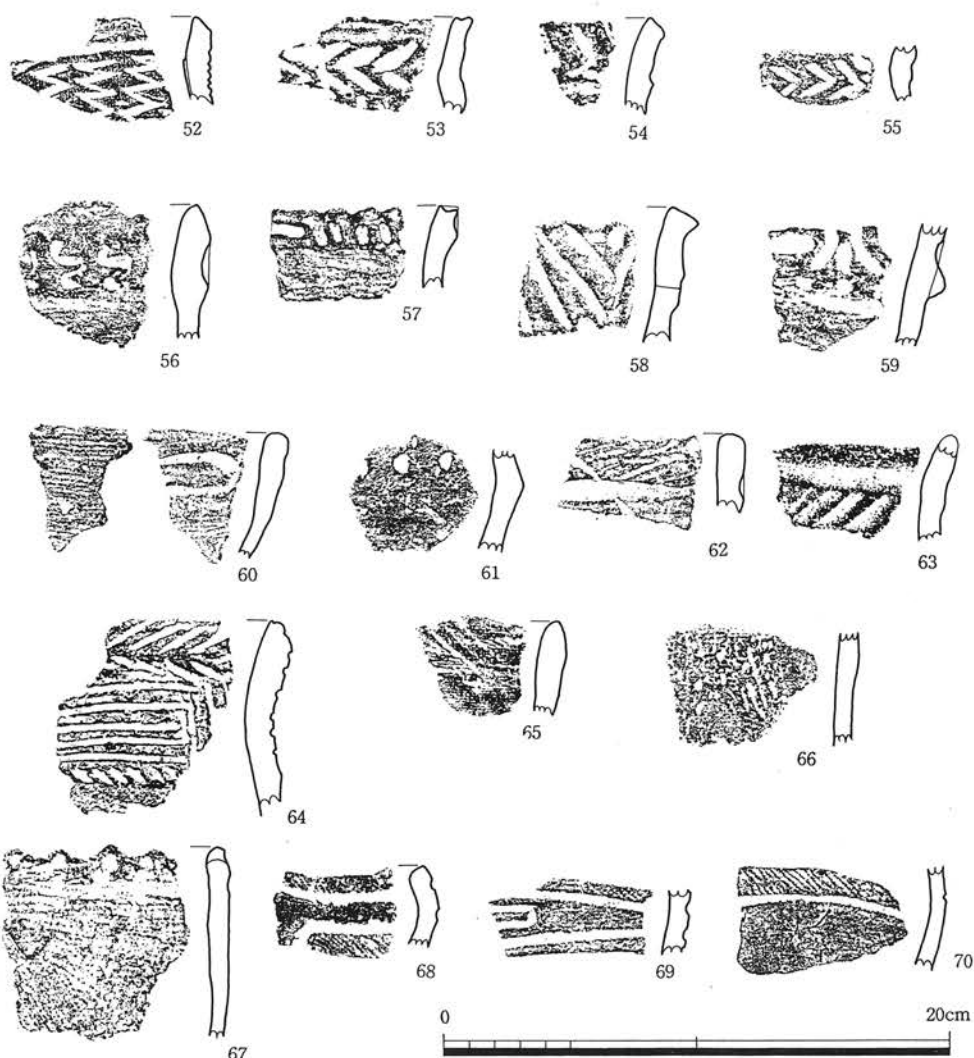


Fig.14 包含層出土遺物実測図(3)

DM265,80はDM317,81はDM342,82はSD002・D 4 グリッド出土。83はDM85。84はDM360,85はDM462,86はD 5 グリッド出土。87はDM483,88はDM247,89はDM45,90はSD001・B 2 グリッド出土。91はDM131,92はB 3 グリッド出土。93はDM256,94はB 4 グリッド、95・96はSD001・C 5 グリッド出土。97はDM247,98はC 2 グリッド出土。99はDM225,100・101はB 3・2 グリッド出土。102はDM296,103・105はSD002・D 4 グリッド、104はB 4 グリッド、106はC 5 グリッド出土。107～110は土器転用土錘。107はA 6、108はB 8、109はC 5、110はC 4 グリッド出土。104・105は組織痕残存。

Fig12・13に示した資料は従来の編年研究におけるいわゆる阿高Ⅱ・Ⅲ式の所産と考えられよう。Fig14-52～63も概ね同時期に位置づけられると思われるが、56～59はあるいは南福寺式に比定されようか。又、64は出水式、67～70は中津式、86は黒川式の所産と考える。87・88の資料も晩期の粗製土器であろう。

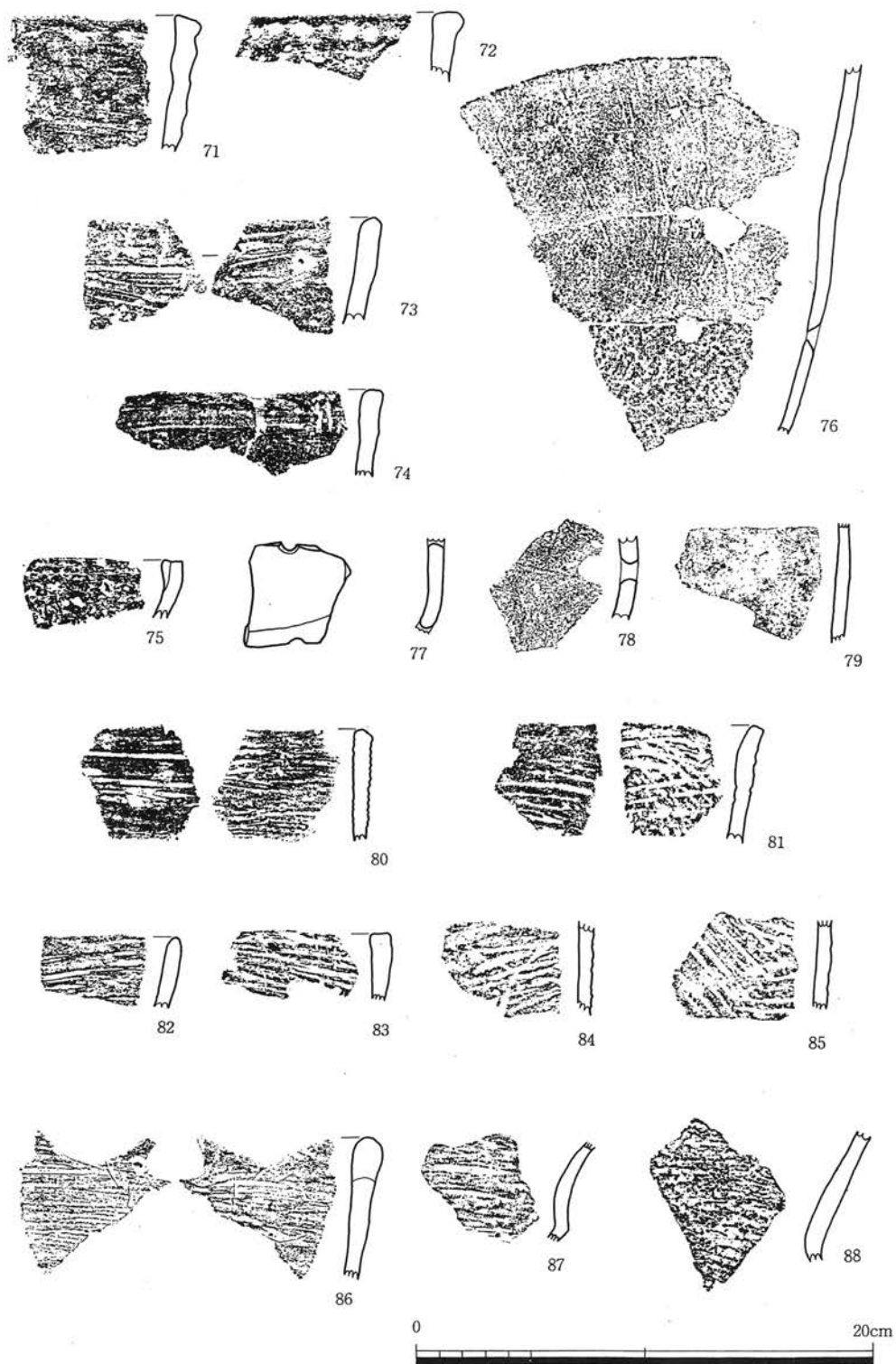


Fig. 15 包含層出土遺物実測図 (4)

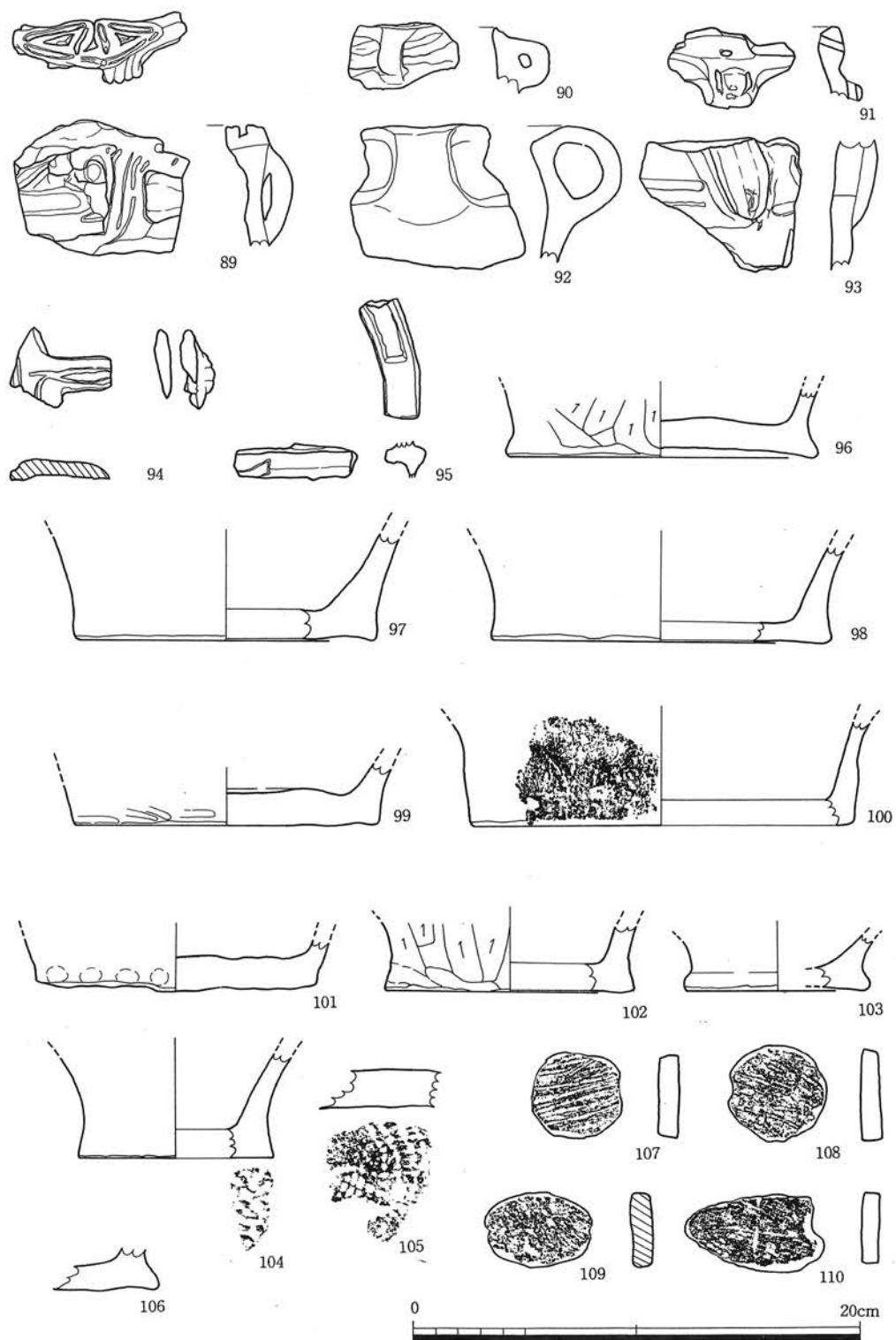


Fig.16 包含層出土遺物実測図（5）

縄文式土器参考文献

<論文>

- 乙益重隆 「西北九州」『日本の考古学』II 河出書房 1965
- 田中良之 「中期、阿高式の研究」『古文化談叢』6 1979
- 「阿高式土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1981
- 「磨消縄文土器伝播のプロセス—中九州を中心として—」『森貞次郎博士古希記念古文化論集 上』 1982
- 松尾禎作 「佐賀県考古大観（先史・原始時代編）」祐徳博物館 1957
- 山崎純男・島津義昭「九州の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣 1981

<報告書>

- 福岡県 「柏原遺跡群」I『福岡市埋蔵文化財調査報告書第90集』 1983
- 「野多目拈渡遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第93集』 1983
- 「野多目拈渡遺跡」II『福岡市埋蔵文化財調査報告書第136集』 1986
- 「野多目拈渡遺跡」III『福岡市埋蔵文化財調査報告書第160集』 1987
- 「四箇遺跡」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第172集』 1987
- 「荒田比貝塚」大牟田市教育委員会 1970
- 「天神山貝塚」『志摩町文化財調査報告書第1集』 1974
- 「元松原遺跡」『岡垣町文化財調査報告書第4集』 1981
- 「新延貝塚」鞍手町埋蔵文化財調査会 1980
- 「山鹿貝塚」山鹿貝塚調査団 1972
- 佐賀県 「坂の下遺跡」『佐賀県文化財調査報告書第19集』 1971
- 「坂の下遺跡の研究」『佐賀県立博物館調査研究書第2集』 1975
- 長崎県 「名切遺跡」『長崎県文化財調査報告書第71集』 1985
- 「殿崎遺跡」『長崎県文化財調査報告書第83集』 1986
- 熊本県 「黒橋」『熊本県文化財調査報告書第20集』 1976
- 「阿高貝塚」『城南町文化財調査報告書』 1978
- 大分県 「立石貝塚」『大分県文化財調査報告書第31輯』 1974
- 「コウゴ—松遺跡調査報告書」久住町教育委員会 1974
- 山口県 「月崎遺跡」宇部の遺跡 1968
- 「与浦遺跡・神田遺跡」『山口県埋蔵文化財調査報告書第27集』 1973
- 岡山県 「高島遺跡調査報告」高島遺跡調査委員会 1956
- 愛媛県 「平城貝塚」御荘町教育委員会 1982

石 器

Fig17～27-1～57は包含層出土の石器である。統計表は掲載しなかったが、本遺跡においては製品・未製品を問わず、安山岩がその石材のほぼ80%を占める。実測図・事実記載については本来、石材・器種別による分類が望ましいが、上述の如く、出土石器の大多数が安山岩である事や、紙数の都合もあり、石材による区分は省略し、器種毎に一括した。

1～7は石鏃。1・2・6は黒耀石、3～5・7は安山岩。調整は全て両面からの押圧剥離による。6は剥片鏃である。1はC 5 グリッド出土。2はDM385。3はDM314。4はE 2 グリッド、5はD 2 グリッド出土。6はDM112。7はD 5 グリッド出土。

8はDM379、安山岩製の尖頭器で、両側からの押圧剥離調整。

9はDM329・10はDM429、共に安山岩を石材とする石匙で、それぞれ縦長剥片・横長剥片を使用している。

11～13は黒耀石製のつまみ形石器。11・13はB 2 グリッド出土。12はDM63。

14はD 5 グリッド出土の黒耀石資料。器種・用途については不明だがつまみ形石器の未製品であろうか。

15はDM92。黒耀石で両側縁に刃こぼれ状の剥離が認められる。

16はDM479、黒耀石石核である。不定方向の剥離がみられる。

17はDM30、黒耀石製横長剥片資料である。用途・器種は不明であるが、両側縁に刃こぼれ状の剥離がみとめられ、スクレイパー、あるいはポイントとしての機能が想定される。

18～29は黒耀石製縦長剥片資料。いずれも両側縁ないし、片側縁に刃こぼれ状の剥離が認められ、刃器としての機能の想定されるものもあるが、これらが全て使用痕によるものかどうかは断定できない。18はDM309、19はDM135、20はDM248、21はDM80、22はDM51、23はDM388、24はA 6 グリッド出土。25はDM361、26はDM481、27はDM81、28はB 5 グリッド出土。29はDM31。18は半ば以下を欠損する。

30はDM224、安山岩資料。両面から押圧剥離によって調整する。器種は判然としないがスクレイパーであろうと思われる。

31～34は安山岩で片面の片側縁にのみ押圧剥離が認められる。削器と考えられる。31はDM9932はDM16、33はDM153、34はC 2 グリッド出土。

35はDM458。片面の全側縁が細かい剥離により調整され、あるいはスクレイパーとしての機能が想定されよう。

36はDM372、安山岩を石材とし器面のほぼ全面に細かい押圧剥離調整が施されるが、その用途については不明。石器未製品あるいは石核と考えられる。

37～45・48～50は横長剥片、46・47は縦長剥片資料で、石材は全て安山岩。両側縁ないし片側縁に刃こぼれ状の剥離が観察されるが、これらの全てについて使用痕と断定することは危険

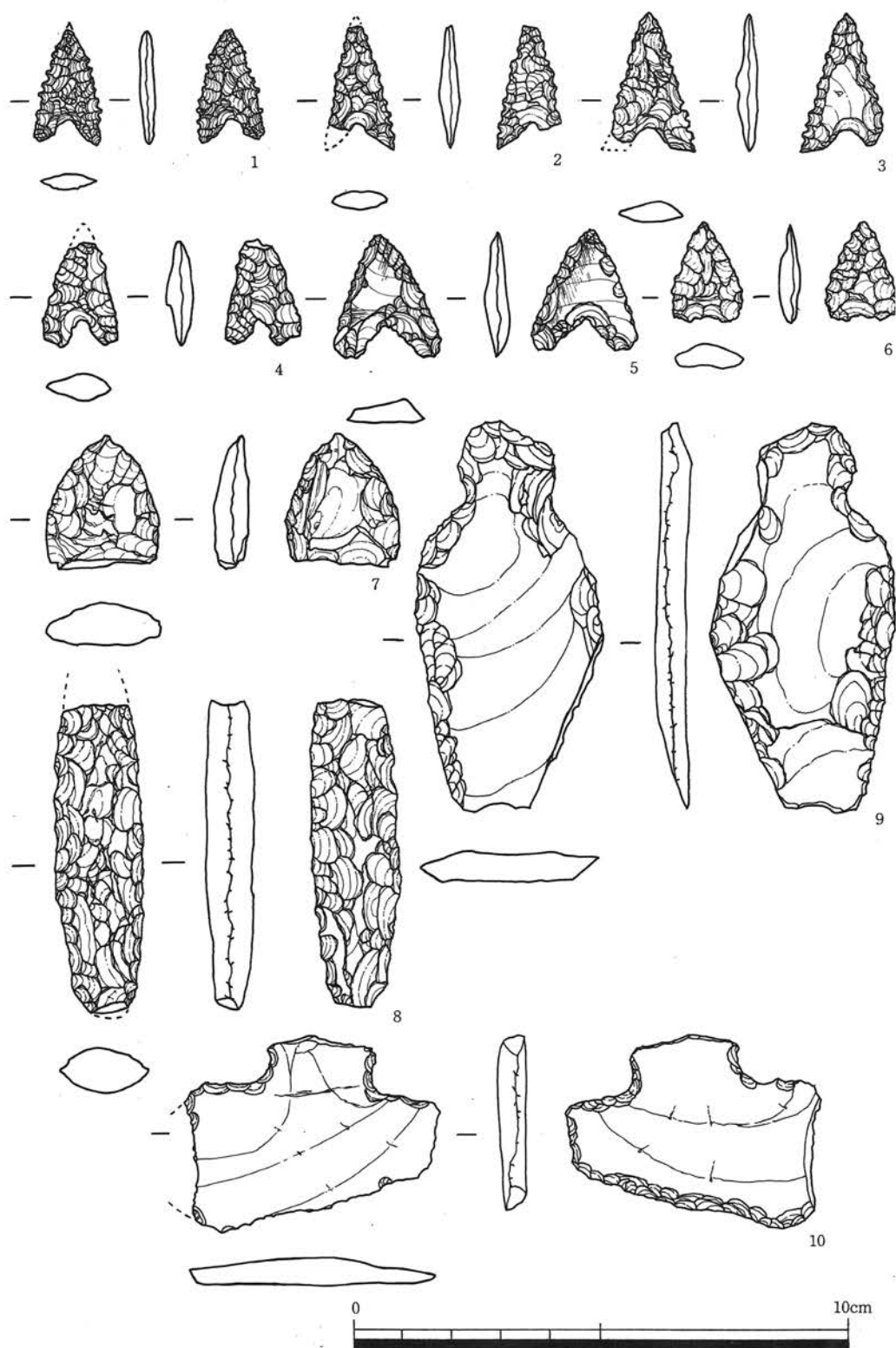


Fig. 17 包含層出土遺物実測図 (6)

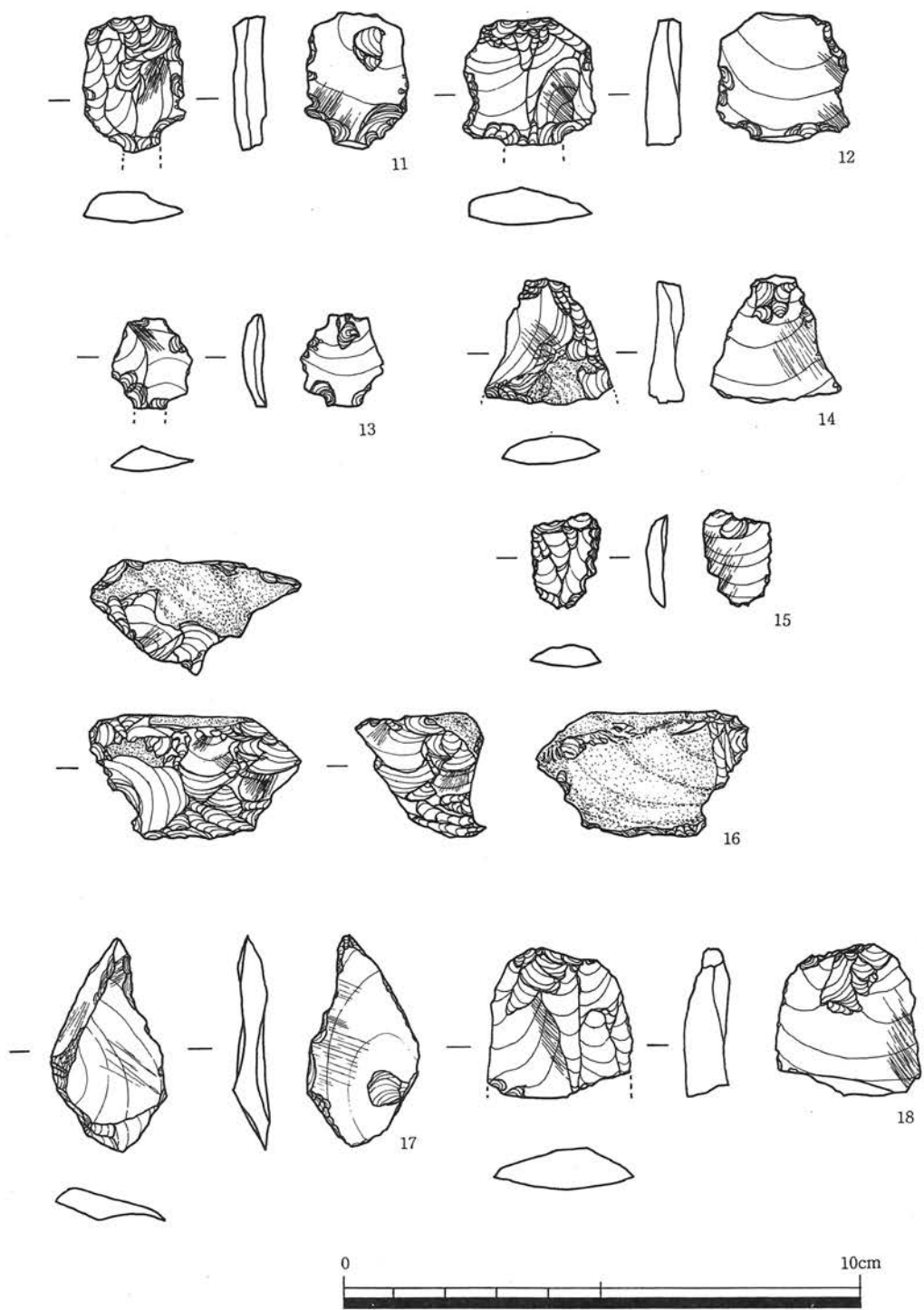


Fig. 18 包含層出土遺物實測圖 (7)

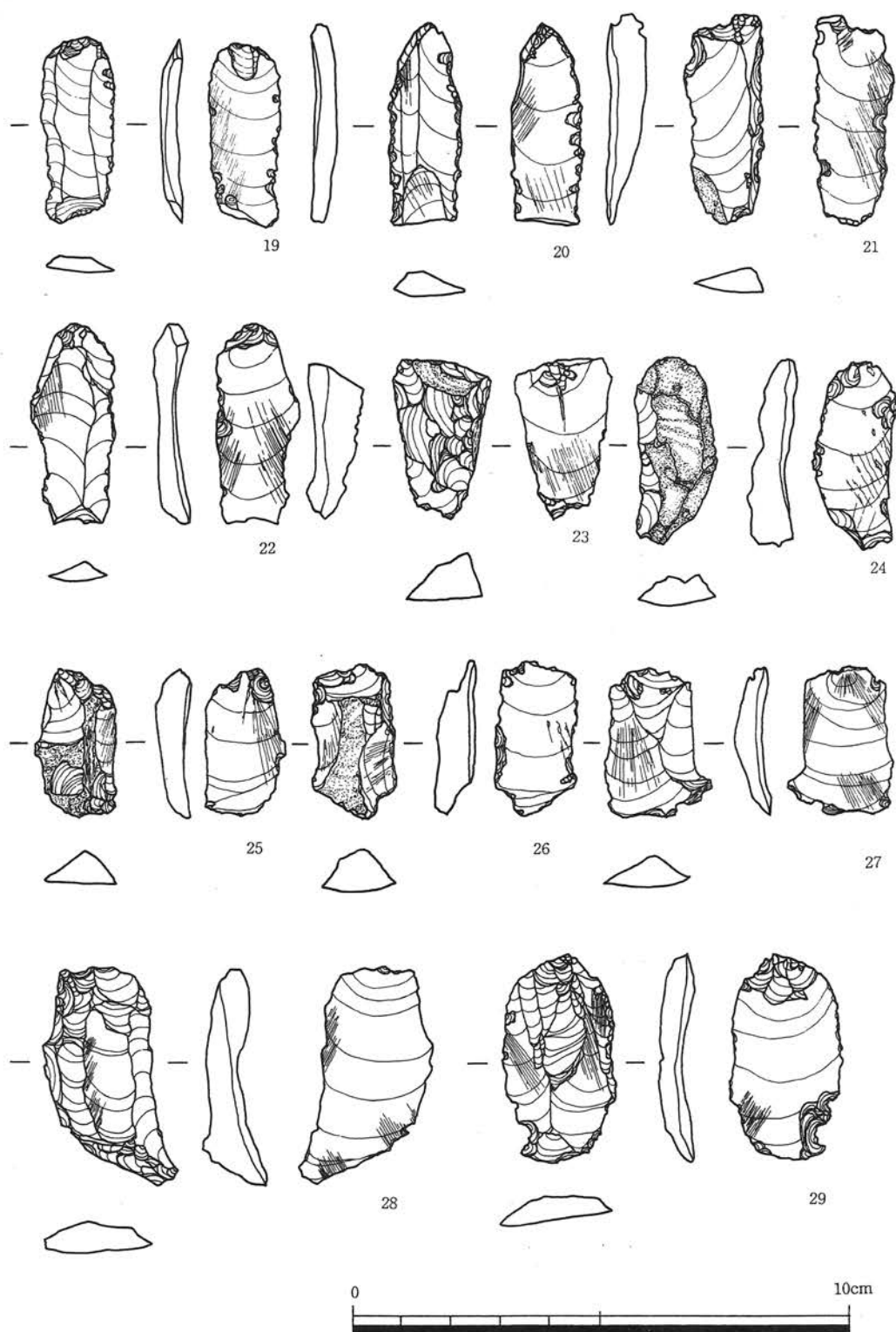


Fig. 19 包含層出土遺物実測図（8）



Fig.20 包含層出土遺物実測図（9）

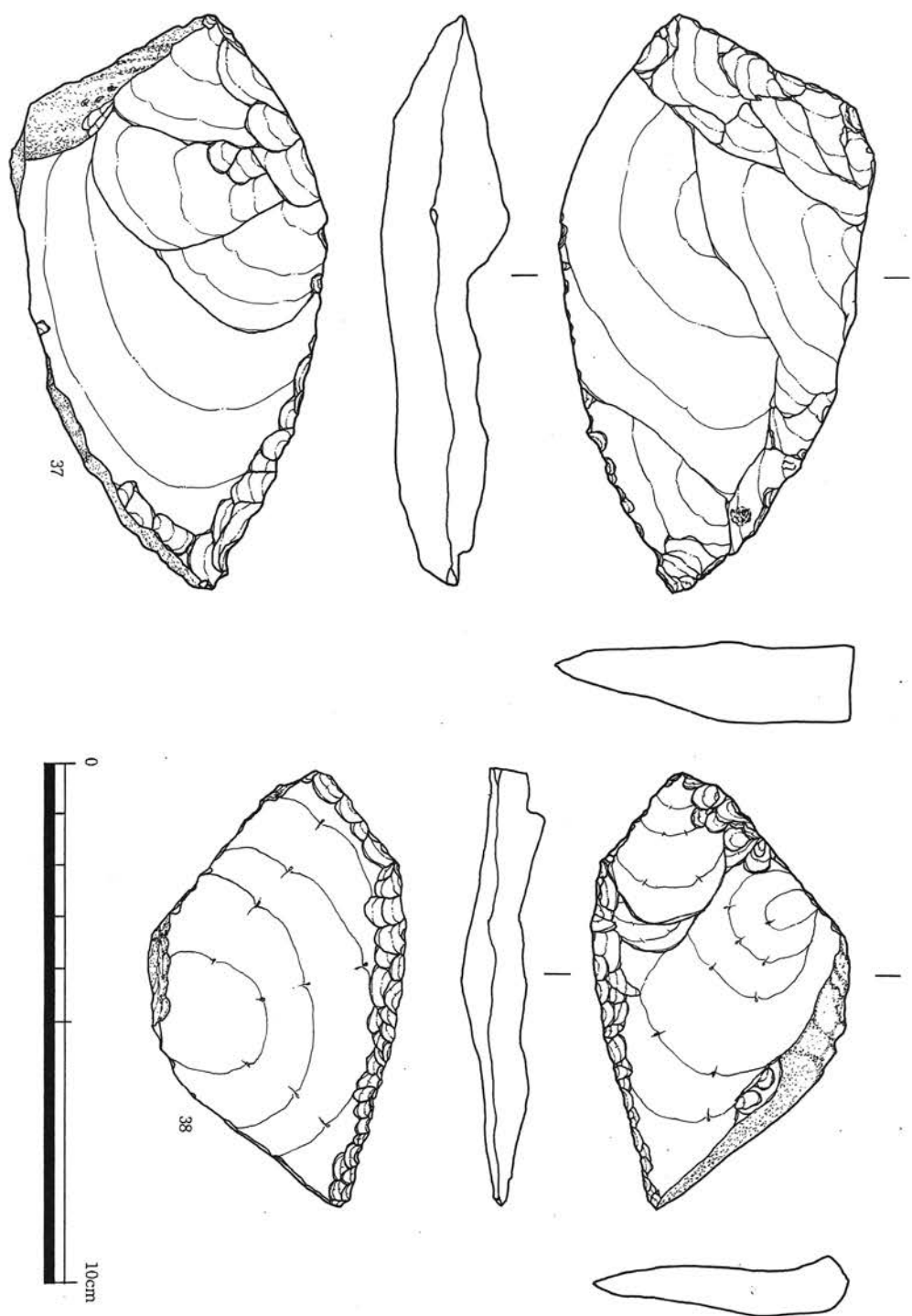


Fig. 21 包含層出土遺物実測図 (10)

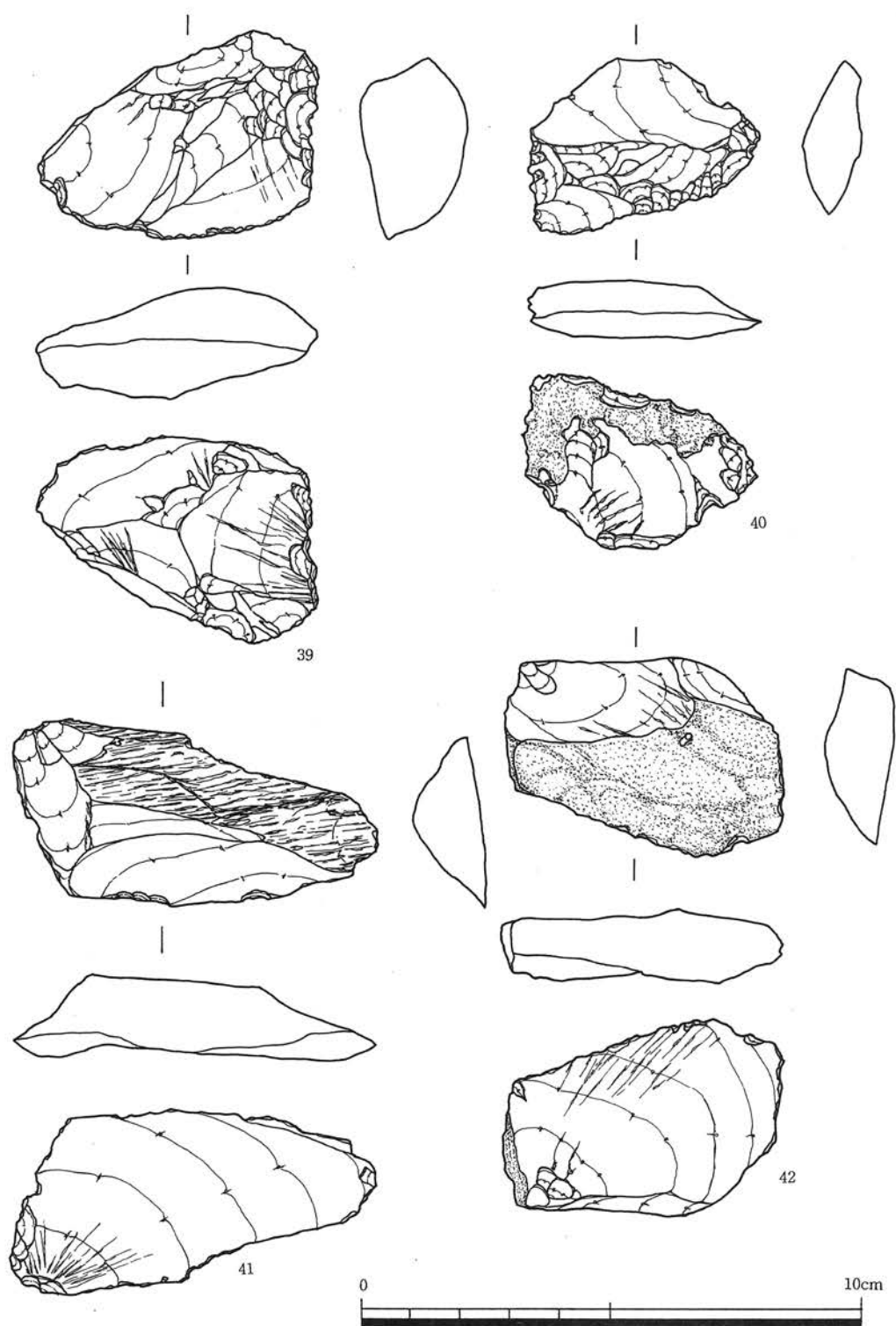


Fig.22 包含層出土遺物実測図 (11)

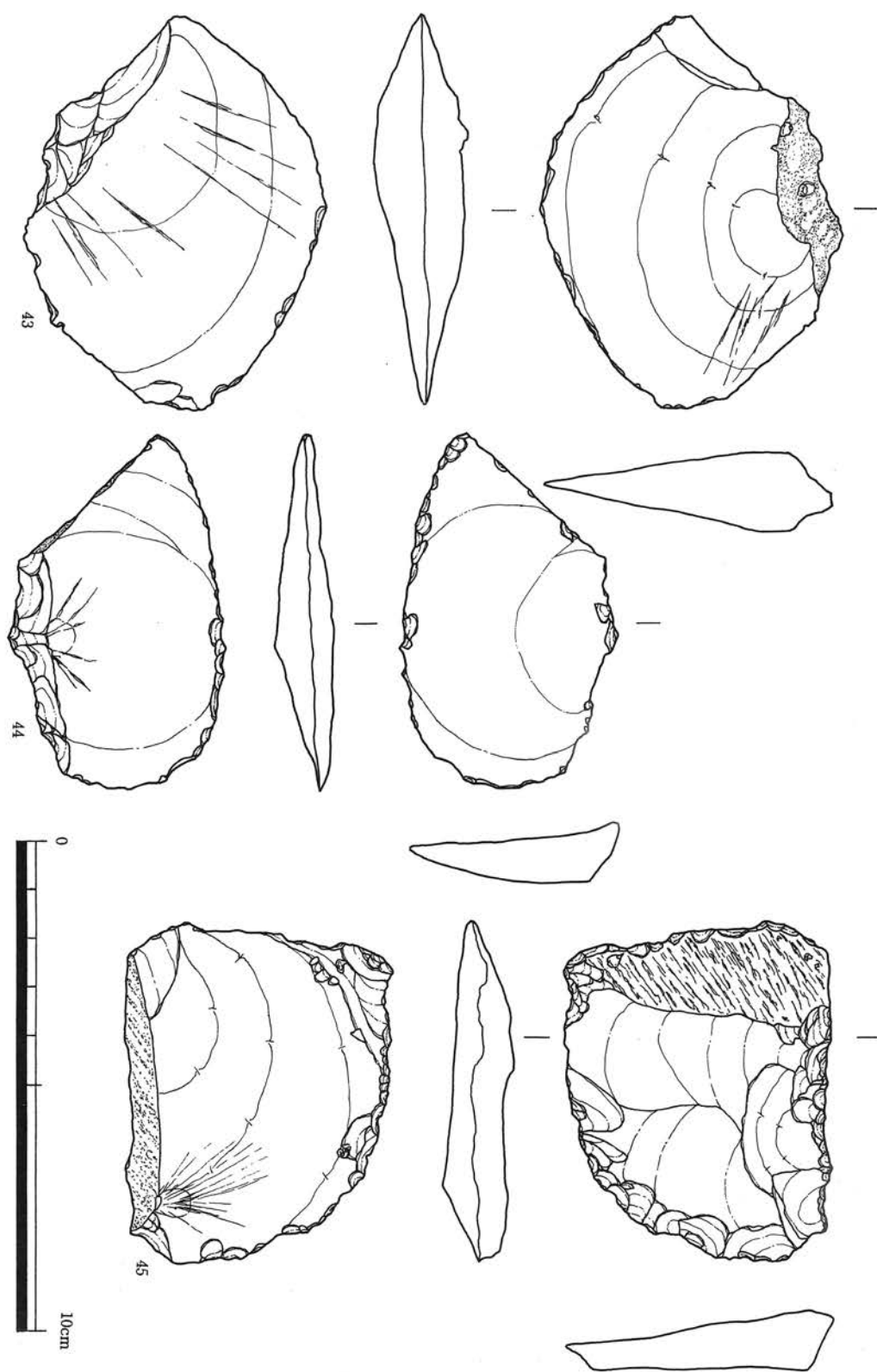


Fig. 23 包含層出土遺物実測図 (12)

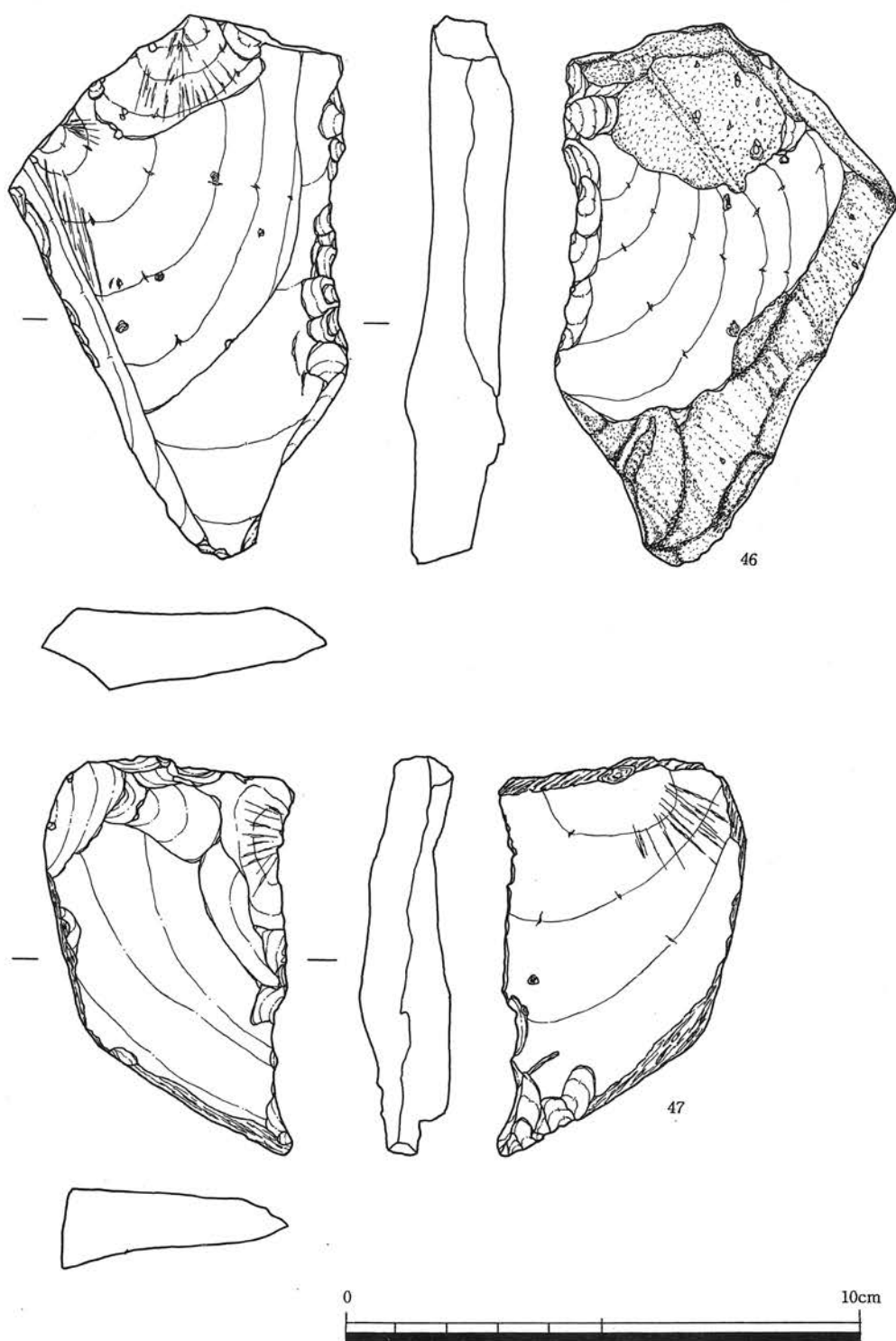


Fig. 24 包含層出土遺物実測図 (13)

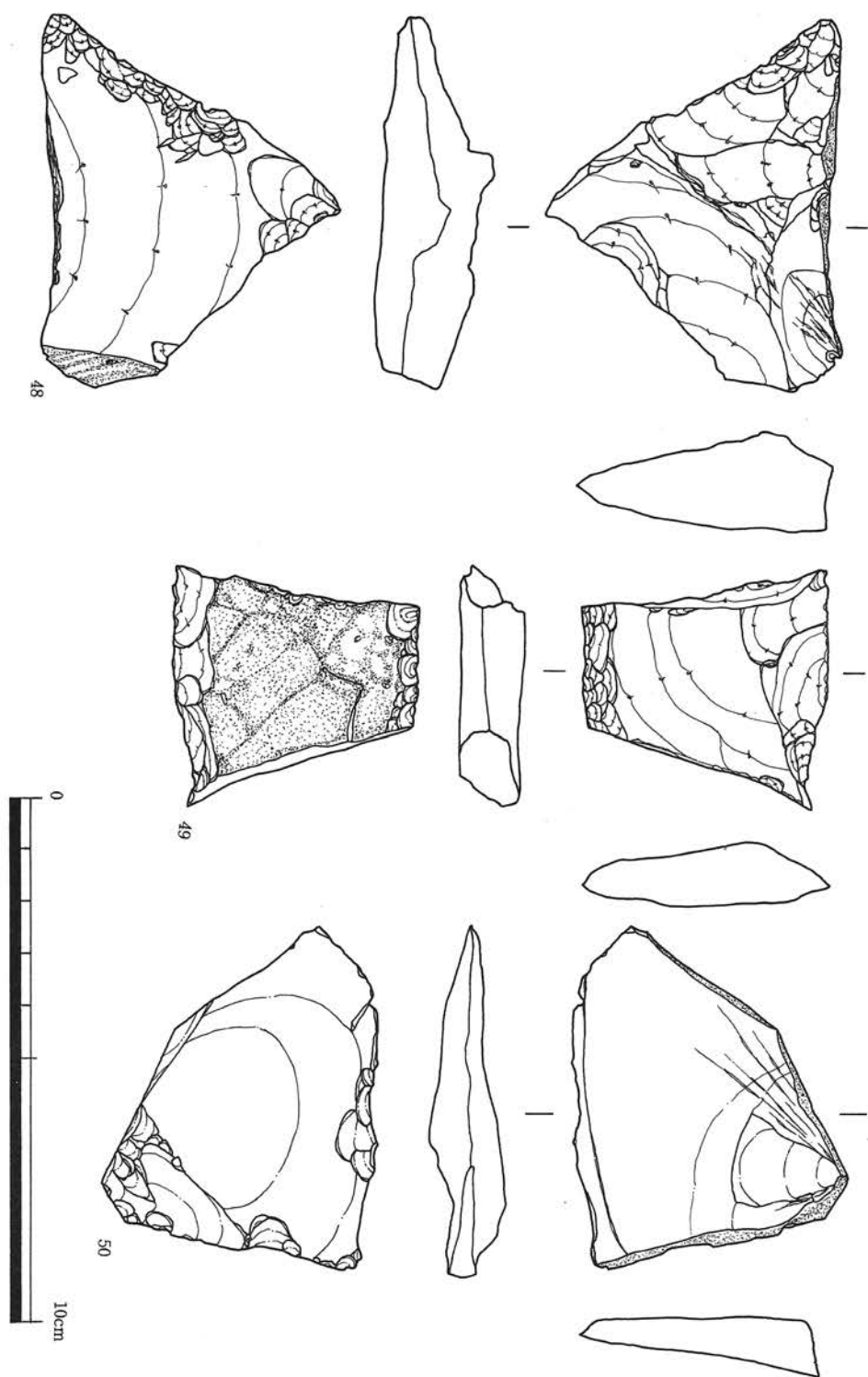


Fig. 25 包含層出土遺物実測図 (14)

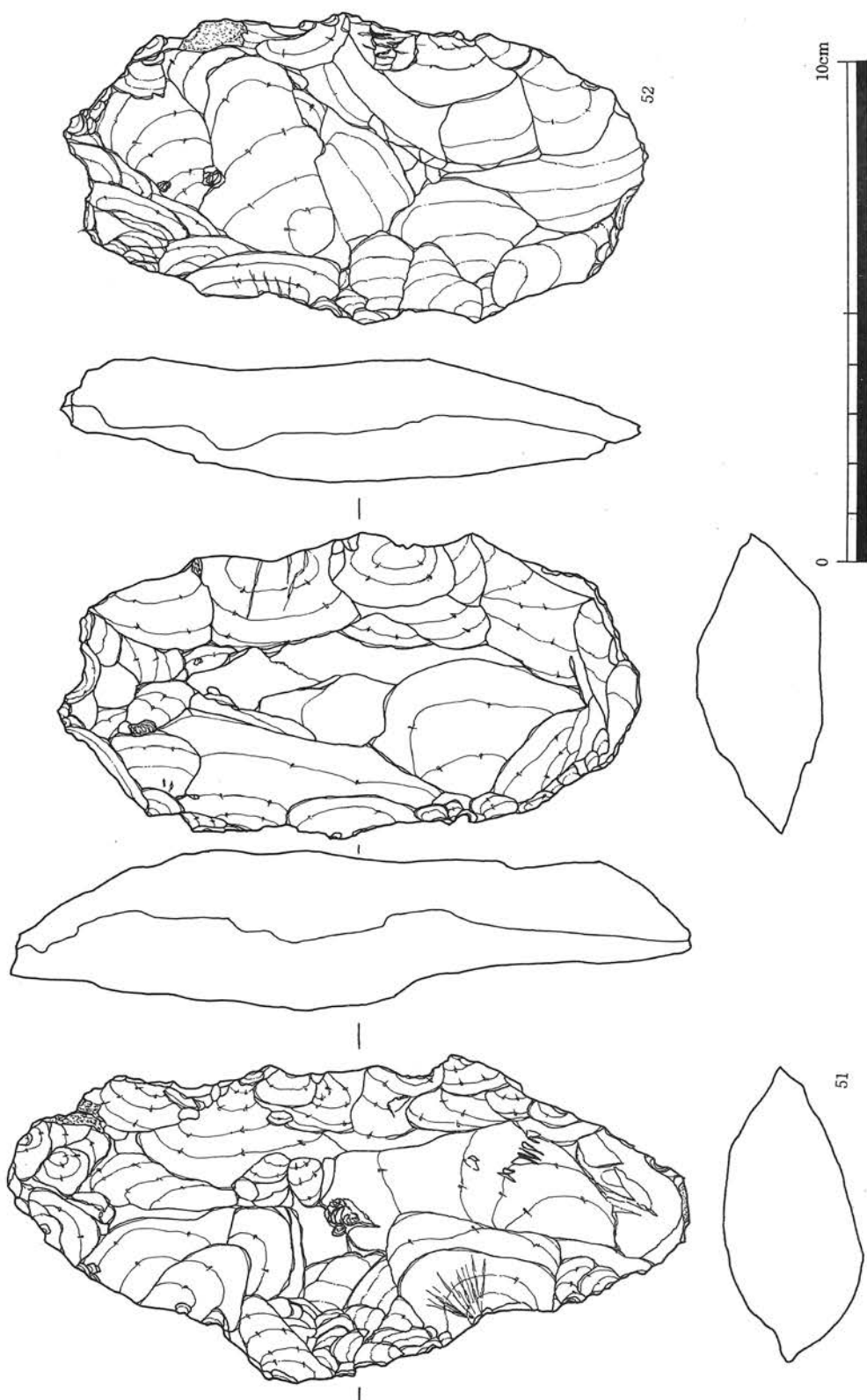


Fig. 26 包含層出土遺物実測図 (15)

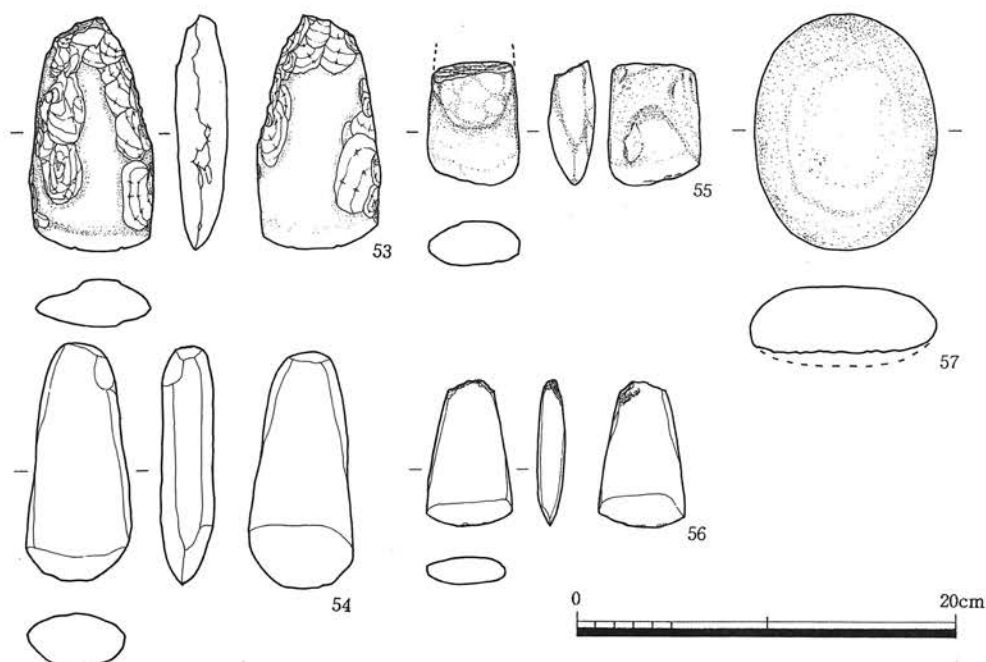


Fig.27 包含層出土遺物実測図 (16)

である。消極的ではあるが、使用痕のある剥片（UF）としての可能性を指摘するにとどめた。37はDM200、38はD 2 グリッド出土。39はDM444、40はDM89、41はDM233、42はDM142、43はDM231、44はD 7 グリッド、45はSD002・B 2 グリッド出土。46はDM192。47は確認調査時にD 5 グリッド付近から出土。48はDM26、49はDM19、50はDM230。

51・52は安山岩、両面に不定方向からの剝離を施す石核である。51はDM253、52はI 区出土。

53はDM198、砂岩製の局部磨製石斧。

54はDM413、砂岩製の磨製石斧であるが磨耗のため器表面は著しく荒れている。

55はDM36、砂岩製磨製石斧の破損品である。

56はC 2 グリッド出土、グリーンタフを石材とする磨製石斧である。

57はC 3 グリッド内に位置するSK071の直上より出土。砂岩製の凹石である。出土状況から判断する限りは遺構に伴うものではない。本遺跡検出の土壌はIII章で既述の様に掘り込みは10cmにもみたくないが、これらがすべて本来の形状を示したものと考えるべく、掘り込みがもっと上面であったと仮定し得るならSK071出土遺物の可能性がある。

これらの石器資料個々の計測数値については巻末の収藏品目録を参照されたい。

石器参考文献

片岡肇 「いわゆる『つまみ形石器』について」 『古代文化』22-10 1970

下川達彌 「剥片鑑考」 『長崎県美術館研究紀要』1 1973

橋昌信 「縦長剥片」 『別府大学史学論叢』第9号 1978

(加藤)

2. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 遺構と遺物

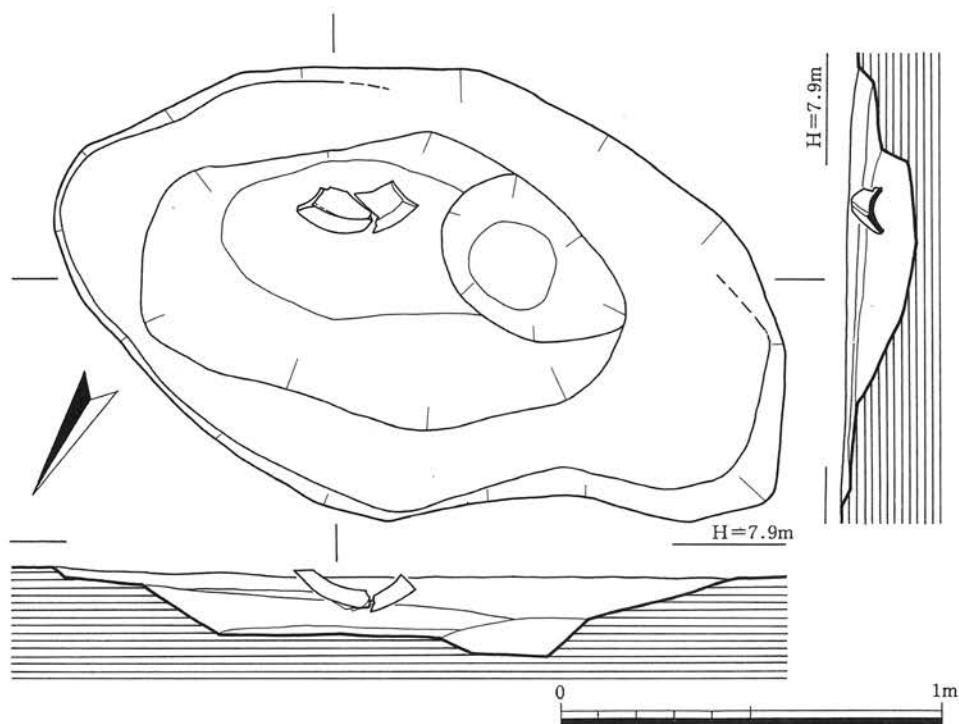


Fig.28 SK016実測図

SK016土壌

SK016はB 9 グリッドに位置し、東西約2.0m×南北約1.3mを計り不整楕円形を呈する土壌である。遺構確認面からの掘り込みは20～25cm、暗茶褐色土単一層を覆土とする。

本遺構からは覆土の上位からFig 29-1の壺形土器の口縁部が出土した。ヘラミガキによる器面調整が施され、頸部内面には絞り痕が僅かに認められる。口縁部内面から外面にかけて赤色顔料が塗布されている。本資料は弥生時代中期に位置づけられよう。Fig 29-1 以外にも同時期と思われる土器片が出土しているがいずれも細片であり実測に値しない。

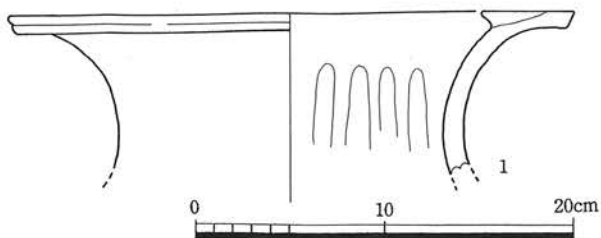


Fig.29 SK016遺物実測図

SK091

C 2・3、D 2・3 グリッドより検出された。長軸4.5m×短軸1.6mの不整楕円形プランを有し、遺構確認面からの掘り込みは30～40cmを計る。覆土は黒褐色。

III章において既に述べた通り、

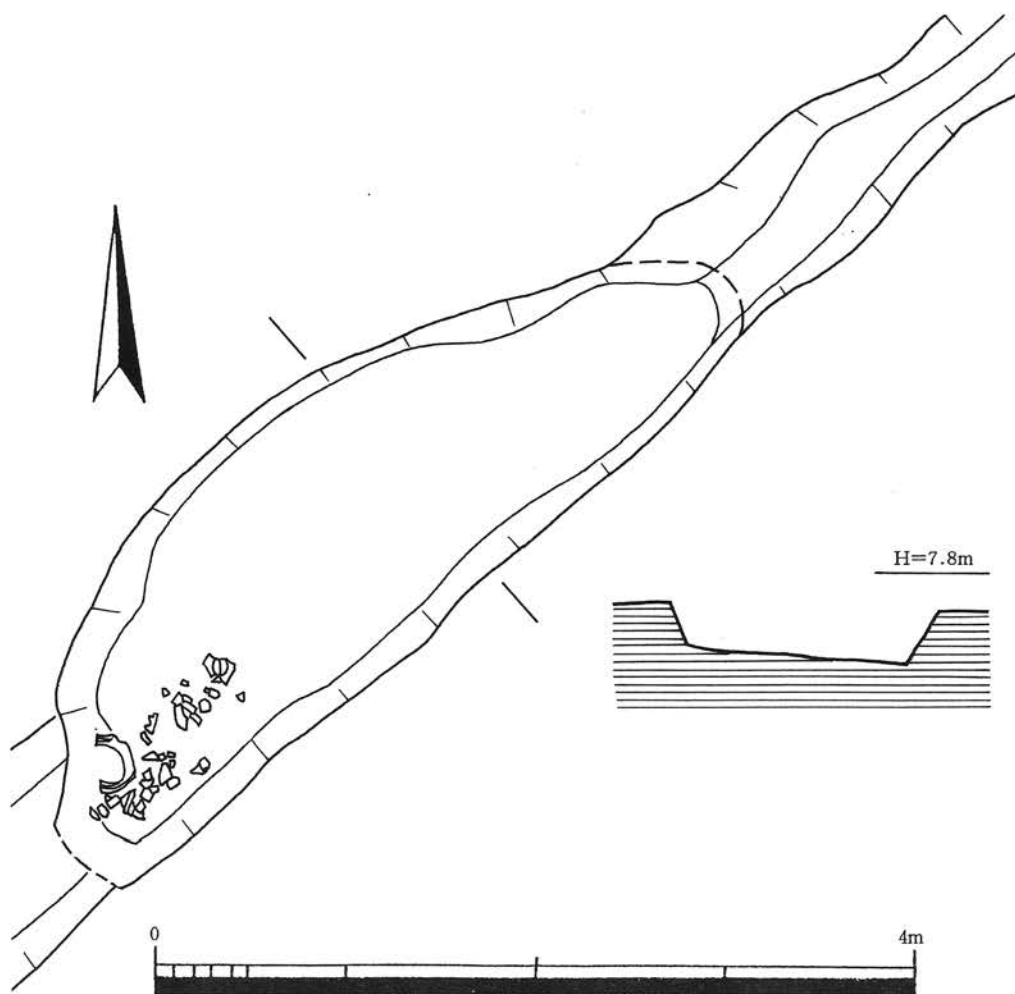


Fig.30 SK091実測図

本土壤はSD002 との切り合い関係を有し、これによって切られている。

Fig 31-1～4 は覆土の上位から出土した。弥生時代中期の所産と考えられる。他に同時期と思われる土器片を検出したが、復元実測の不可能な小破片ばかりの為、割愛した。1は甕形土器でハケメによる調整が施される。器面はやや磨耗している。2は壺形土器底部、3・4は甕形土器底部資料である。2は内面をナデ、外面をヘラミガキにより調整する。3・4は内面をナデ、外面をハケメによって調整している。

SR004 方形周溝状遺構

A 9・10、B 9・10グリッド内に位置する。黒褐色土を覆土とする。弥生時代中期と思われる土器小破片が僅かに検出されたが、実測に値しない為割愛した。

(2) 包含層出土遺物

包含層出土遺物はFig 33・34に示した。資料の個々の内容についてはTab 3の遺物観察表の記述を参照されたい。

(加藤)

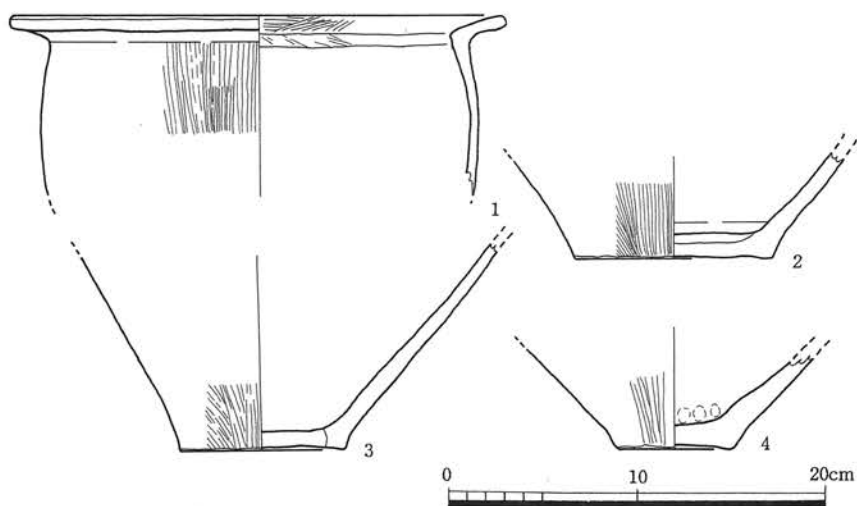


Fig. 31 SK09I遺物実測図

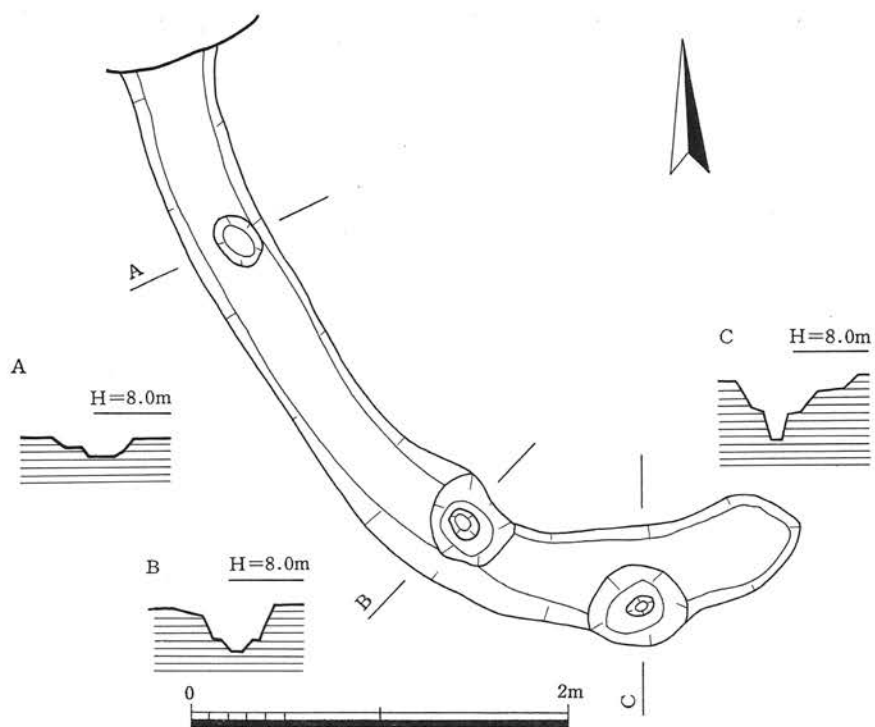


Fig. 32 SR004実測図

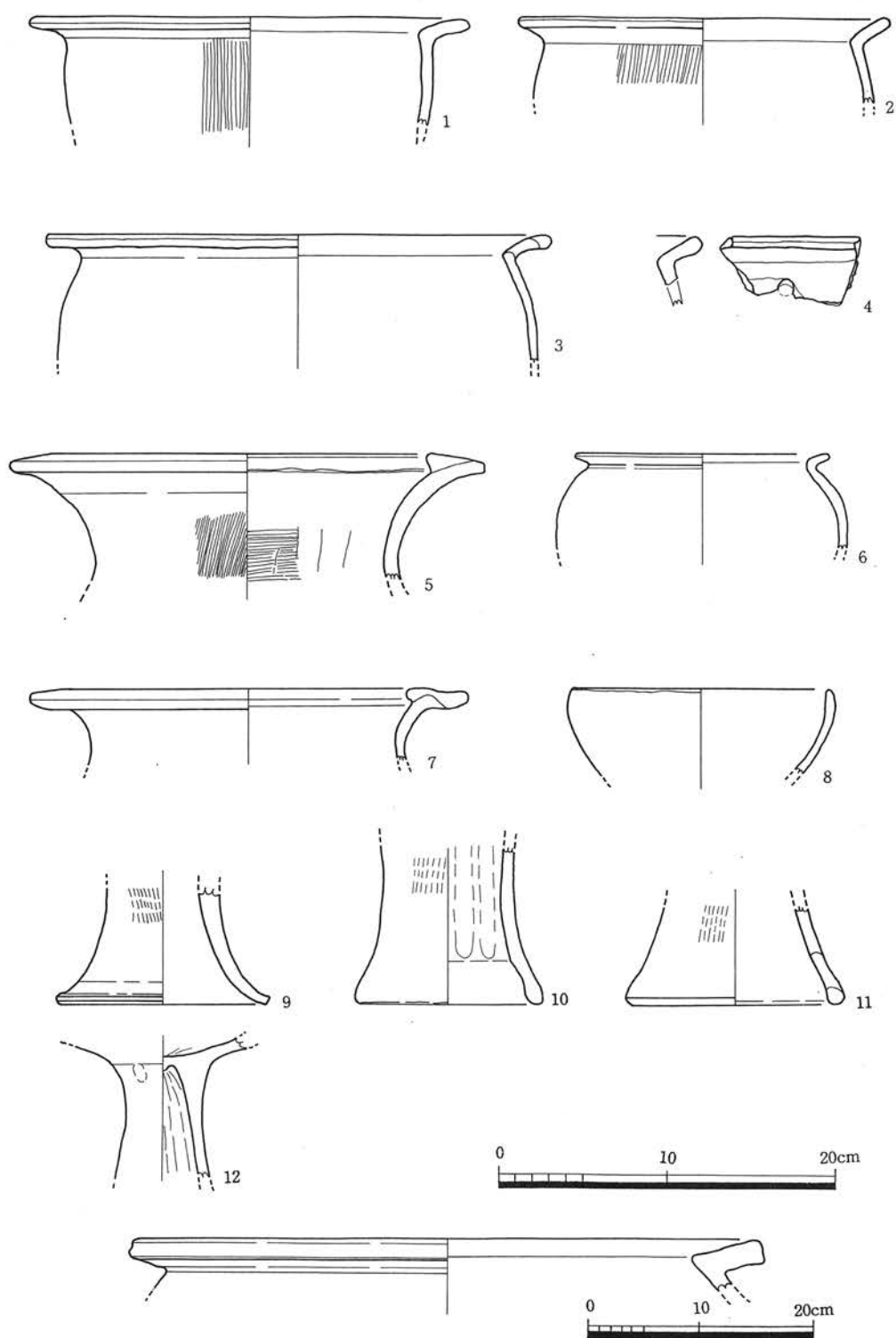


Fig.33 包含層出土遺物実測図 (17)

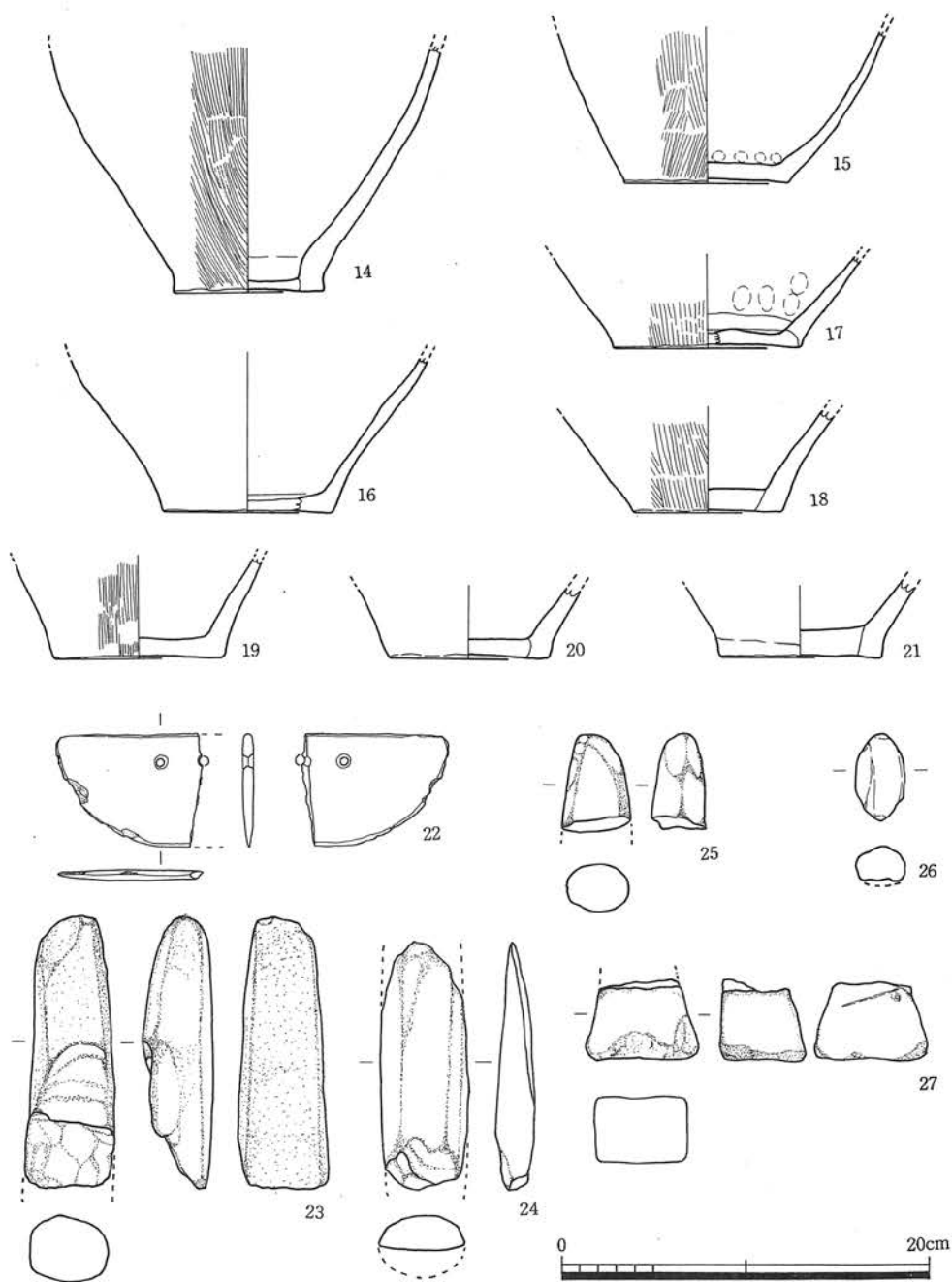


Fig. 34 包含層出土遺物実測図 (18)

No	遺構	品 種	法 量			特 徴	胎 土	焼成	色 調	残 存
			口 径	底 径	器 高					
29-1	SK016	壺	外径29.7	—	(7.5)	・内外面とも顔料塗布	砂粒を多く混入	良好	褐色	口縁部～胴部にかけて35%
			内径20.2			・ヨコナデによる調整	雲母も微量混入			
31-1	SK091	壺	26.2	—	(9.4)	内面ナデ外面ハケメ調整、口縁部ヨコナデ	雲母少量の砂粒を含む	良好	灰褐色	口縁部～胴部上半65%
31-2	#	#	—	10.2	(5.7)	体部ハケメによる調整	雲母小石砂粒を含む	良好	灰褐色	胴部下半25%底面95%
31-3	#	#	—	8.8	(11.8)	磨減の為調整不明瞭	雲母砂を多く含む	良好	灰褐色	胴部下半35%底面100%
31-4	SD002 C3G	#	—	6.0	(5.2)	内面ナデ外面ヘラミガキ	雲母砂粒を含む	良好	茶褐色～黒色	胴部下半35%底面60%
33-1	D4G	壺	26.0	—	(6.3)	内面ナデ外面ハケメ口縁部ヨコナデ	砂粒多量混入	良好	黄褐色	口縁部～胴部上半にかけて25%
33-2	HK	#	30.0	—	(8.6)	磨減の為調整不明瞭	雲母砂粒を多く含む	良好	黄褐色	口縁部～胴部上半12.5%
33-3	B7G	#	22.0	—	(4.9)	内面ナデ外面ハケメ口縁部ヨコナデ	雲母砂粒を含む	良好	黄褐色	口縁部～胴部上半13%
33-4	HK	#	—	—	—	穿孔を施す	少し砂粒を含む	良好	黄褐色	小破片
33-5	B7G	壺	内径21.2	—	(7.4)	内外面ハケ目調整内面しぼり痕	雲母を含む砂粒を	良好	褐色	口縁部～胴部35%
			外径28.1			頸部内面にしぼり痕が僅かに残存	多く混入する			
33-6	HK	#	内径18.6 外径26.0	—	(4.4)	磨減の為調整不明瞭	雲母砂粒を含む	良好	顔料塗布	口縁部～頸部25%
33-7	#	#	15.0	—	(5.7)	内・外面ナデ口縁部ヨコナデ	雲母砂粒を含む	良好	灰褐色	口縁部～胴部上半12.5%
33-8	C7G	瓶	15.0	—	(5.2)	磨減の為調整不明瞭	雲母多量の砂粒	良好	灰褐色	口縁部～体部25%
33-9	B7G	器台	—	12.0	(7.0)	#	雲母少量の砂粒を含む	良好	灰褐色	胴部下半～器底25%
33-10	D10G	器台	—	11.0	(9.5)	#	雲母砂粒を含む	良好	灰褐色	胴部下半～器底50%
33-11	D10G	器台	—	12.2	(6.0)	#	雲母少量の砂粒	良好	灰褐色	器底25%
33-12	D10G	高杯	—	—	(8.4)	#顔料塗布	雲母少量の砂粒を含む	良好	灰褐色	胴部縁部及び胴部上半100%
33-13	HK	甕棺	54.4	—	(4.4)	口縁部ヨコナデ	雲母砂粒を含む	良好	褐色	口縁部25%
34-14	D4G	壺	—	8.2	(13.8)	内面ナデ、外面ハケメ	砂粒多量混入	良好	灰褐色	胴部下半35%底面100%
34-15	B7G	壺	—	8.9	(8.5)	内面ナデ、指頭庄痕、外面ハケメ	雲母砂粒を含む	良好	褐色	胴部下半35%底面100%
34-16	HK	壺	—	9.2	(8.6)	内面ナデ、外面磨減の為調整不明瞭	砂粒を多く含む	良好	赤褐色	胴部下半～底面縁辺35%
34-17	D10G	壺	—	10.0	(4.9)	内面ナデ、指頭庄痕、外面ハケメ	雲母砂粒を含む	良好	灰褐色	胴部下半～器底60%
34-18	HK	壺	—	8.1	(5.7)	内面ナデ、外面ハケメ	砂粒を多く含む	良好	灰褐色	胴部下半25%底面100%
34-19	A6G	壺	—	9.2	(5.4)	#	砂粒	良好	内面暗灰色 外面灰褐色	底面100%
34-20	B7G	壺	—	8.6	(4.0)	磨減の為調整不明瞭	砂粒を含む	良好	灰褐色	底面90%
34-21	B7G	壺	—	8.8	(5.2)	磨減の為調整不明瞭	小石混りの砂粒を	良好	内面暗褐色	底面90%
						多く含む			外面灰褐色	

No	遺 構	種 別	石 材	長 さ	幅	厚 さ	重 さ
34-22	C7G	石包丁	粘板岩	(7.8)	6.2	0.6	未計測
34-23	C7G	石斧	砂岩	(14.8)	4.9	3.8	未計測
34-24	D6G	石斧	#	(13.6)	4.8	(1.9)	未計測
34-25	D2G	石斧	#	(5.4)	(3.8)	2.6	未計測
34-26	F5G	投弾	土製品	4.8	2.6	(1.9)	未計測
34-27	C2G	砥石	砂岩	(4.2)	(5.9)	—	未計測

Tab. 4 弥生時代遺物観察表

No	遺 構	品 種	法 量			特 徴	胎 土	焼成	色 調	残 存
			口 径	底 径	器 高					
36-1	SB	須恵器杯	11.8	外径7.8	4.1	ロクロ成形後ナデ調整	砂粒を含む	良好	灰色	20%223
			内径6.	6						
38-1	SD005	土師器小皿	8.8	7.5	1.3	底部内面ロクロ成形後ナデ調整	雲母が混入	良好	黄褐色	完形227
						部分的に指頭庄によるナデ調整の痕跡				
						底部外面ロクロ回転ヘラ切り磨し未調整				
38-2	SD005	土師器小皿	9.1	6.7	1.2	底部外面ロクロ回転ヘラ切り磨し後ナデ	雲母が微量混入	良好	淡褐色	70%229
						底部内面ロクロ成形				
						のち不定方向へ強いナデ				
38-3	SD005	土師器小皿	9.0	6.5	1.4	底部外面ロクロ回転ヘラ切り磨し	雲母微量混入	良好	淡褐色	完形228
						内面底部ロクロ回転ヨコナデのち不定				
						方向へ強いナデ				

Tab. 5 奈良・平安時代遺物観察表

3. 奈良・平安時代の遺構と遺物

SB092 掘立柱建物

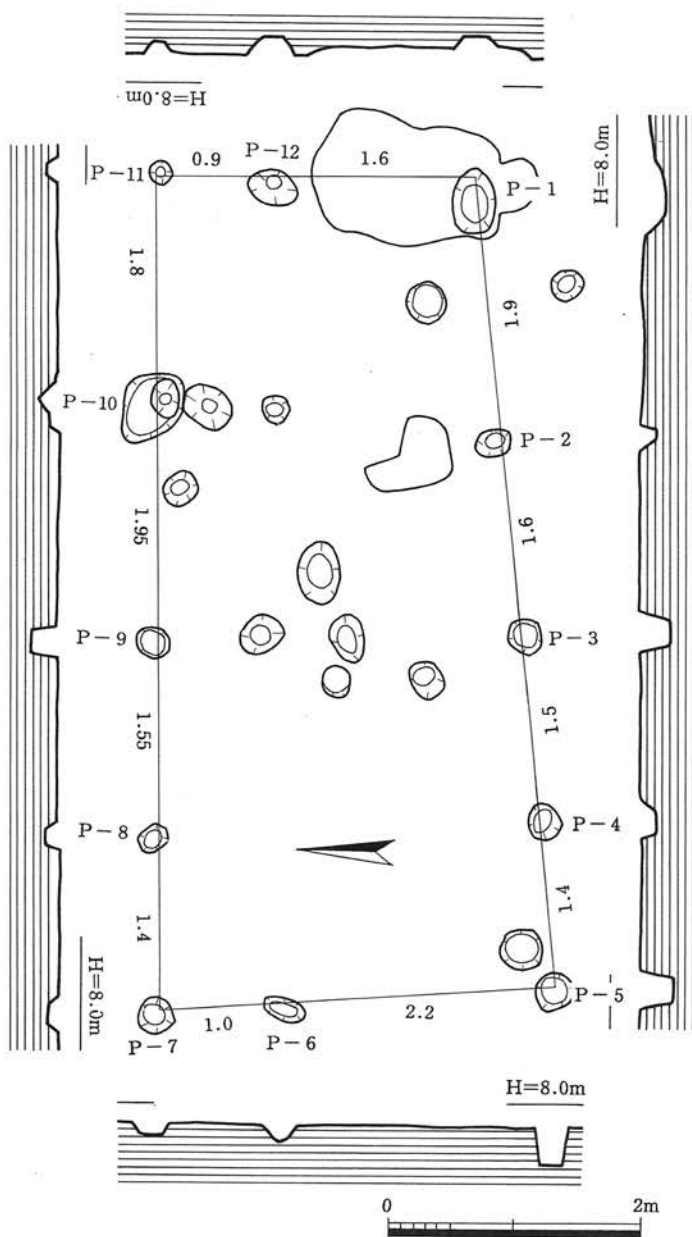


Fig. 35 SB092実測図

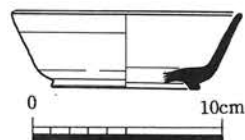


Fig. 36 SB092遺物実測図

B11～13グリッドに位置。柱間寸法は不規則で形状もいびつな長方形を呈しており、掘立柱建物址とすることためらいを覚えたが、これらの柱穴が、暗褐色を覆土とする周囲の柱穴群とは明確に識別できる黒褐色を覆土としている為、一つの遺構としてとらえた。

P2から須恵器片1点が出土。概ね8世紀前半代に比定されよう。

SD005溝

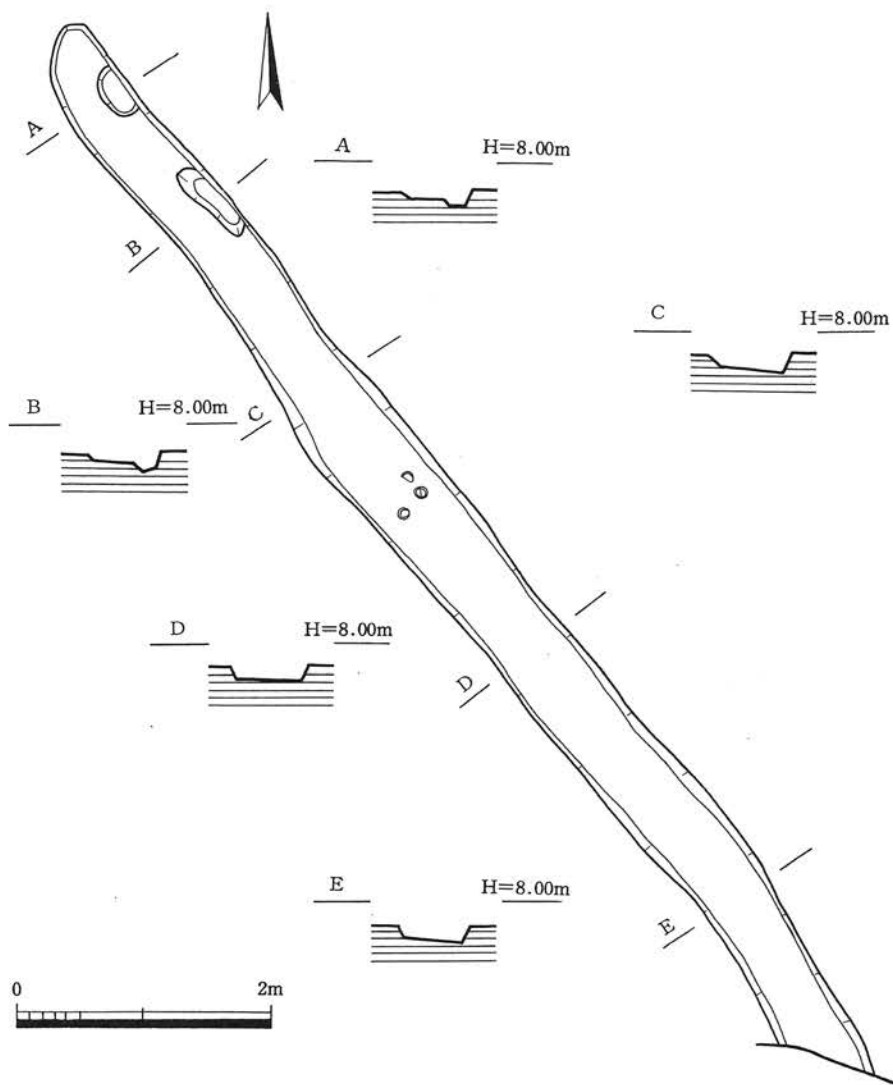


Fig.37 SD005実測図

A14、B13、C12・13グリッ
ド内より検出。幅約60cm～70c
m、遺構確認面からの掘込みは
15～25cm。覆土は暗茶褐色土
を基調とする。

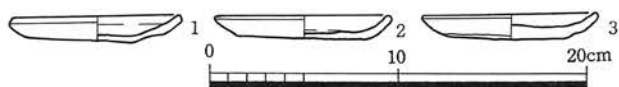


Fig.38 SD005遺物実測図

Fig 38-1～3に示した土師器が出土。10世紀前半代に位置づけられよう。

(加藤)

V. 小 結

今回の調査においては、縄文時代中期～後期の土壌・ピットならびに遺物、弥生時代中期の土壌・遺物、奈良・平安時代の堀立柱建物・溝・遺物、時期不明の遺構（溝・小穴）等が検出された。

Ⅲ章で既に述べたことと重複するが、今回の調査地点は舌状台地の谷部分に相当すると考えられ、又、おそらくはこうした地理的環境等に起因するのであろう、ローリングを受けたことを裏付けるように包含層出土遺物中にあるのは縄文土器・石器、弥生土器、土師器、須恵器、更には陶磁器片が層位的にも平面的にもいり交じった形で検出され、遺構・遺物の遺存状況は、良好であったとは必ずしも言えないが、そのことがこれらの資料価値を下げることは決してない。むしろ縄文時代に位置づけられる遺物、特に土器は当該時期の遺跡・遺構の調査例ならびに検出例の少ない佐賀平野（特に佐賀市域）にあっては貴重な資料である。

本遺跡出土の縄文土器はその型式的特徴から、阿高式、及び、阿高系とされているものが主体を成し、出土点数は少ないがこれに継続する南福寺式、出水式、瀬戸内地方にその分布の源を置く中津式、更には黒川式期の資料も出土した。

いわゆる阿高系を含め、阿高式に比定されるものは概ねⅡ～Ⅲ式期に位置づけられよう。又、南福寺式としたFig 14-56～59であるが、阿高式の特徴をも僅かながら残しており、Fig 14-53～55等と併せ、厳密には阿高式～南福寺式への移行期のものとして捉えるべきかもしれない。Fig 14-68～70の資料については、当初、県内研究者向けの冊子等において鐘ヶ崎式として報告していたが、擬縄文を施文することや、沈線文との文様モチーフ等の特徴から中津式であるのご指摘を頂いた。ここに以前の見解を訂正したい。

来迎寺遺跡は七田忠志氏による採集資料を基に、松尾禎作氏がその存在を指摘したことで古くから知られているが、実測図等が公にされた事はないようである。今回の報告に際して、これらの採集資料の実見を試みたが、時間の制約から叶わなかった。しかしながら関係者によれば今調査出土の資料と型式的な大差は見られないようである。

縄文時代における来迎寺遺跡は、主として中期中頃から後期初頭にかけて営まれ、晩期前半においても、一時期営みのあったことが想定される。又、弥生時代、奈良・平安時代の生活痕跡が認められたことは重要である。

以上、今回の調査で得られた成果について述べてみたが、調査・整理作業における問題点にもふれてみたい。包含層出土遺物、特に石器の整理に際しては接合作業を実施しなかった。これは主として現場作業の成果から、包含層出土遺物がローリングを受けた二次堆積資料と判断したことによるが、石器研究の基礎作業を果たせなかったことについては謙虚に反省し、今後の課題としたい。

（加藤）



1. 調査区全景

2. 基本土層写真

3. SK016土壇

4. SK056土壇

5. SK058土壇

6～8. 遺物出土状況

來迎寺遺跡收蔵品目錄

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	遺構名	出土年月	実測図番号 Fig.番号	報告書掲載 コンテナ番号	A・Bの別
RKJ001 ~006	深鉢 (口縁部~胴部)	縄文土器	縄文	不明	-	SK034・035 037・055	8905	2-8-9 4-25-23 5-34, 9-65	1	A
007	深鉢(胴部)	縄文土器	縄文	不明	-	SK056	8905		1	A
008 ~013	深鉢(口縁部~底部)	縄文土器	縄文	不明	-	SK058	8905	10-1~6 6-41~43	1	A
014 ~016	深鉢 (口縁部~底部)	縄文土器	縄文	不明	-	SK084・090	8905	7-54 4-27・28・31 11-1~3	1	A
017 ~020	深鉢, 鉢 (口縁部~底部 ・把手)	縄文土器	縄文	不明	-	SD001	8905	1-2, 8-56 17-126 17-127 14-65	1	A
021 ~028	深鉢 (口縁部~底部) 鉢	縄文土器	縄文	不明	-	SD002	8905	7-50~53 11-89 12-90・94 17-129 14-58 15-72・73 77-76・82 16-103・105	1	A
029 ~066	深鉢 (口縁部・胴部・把握) 鉢(口縁部・胴部)	縄文土器	縄文	不明	-	DM, 6, 13 15, 22, 33 40, 52, 82 85, 110, 121 131, 187, 218 225, 236, 244 247, 251, 256 260, 265, 288 296, 317, 324 335, 342, 345 360, 442, 448 449, 459, 460 462, 475	8905	11-88, 12-98 12-15・11 6-44, 3-21 16-19・21 14-105, 6-38 13-25・29・34 2-11, 8-61 36-37・45 6-40, 3-19 46-49 2-14, 1-3 14-53・55・59 5-33, 10-75 61・62・68 10-74, 12-92 15-78~81 6-37, 10-76 83~85・87 3-17, 6-45 88 13-93, 7-49 16-39・91 12-91, 8-63 93・99・102 14-106・107 7-48, 2-10 6-33, 3-24 9-63, 3-18 7-65, 7-47 2-13, 2-12	1	A

來迎寺遺跡Ⅰ種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号 Fig.番号	報告書掲載 コンテナ番号	A・Bの別
RKJ067 ~073	深鉢 (口縁部・胴部) 土製円盤(073)	縄文土器	縄文	不明	—		A6G	8905	1-5・6 12-10・12・13 8-57・60 15 17-123 13-47 14-64 16-107	2	A
074 075	深鉢 (胴部・口縁部)	縄文土器	縄文	不明	—		A7G	8905	11-79 11-80	2	A
076 ~078	深鉢 (口縁部・底部)	縄文土器	縄文	不明	—		B2G	8905	5-36 8-55 13-99	2	A
079 ~081	鉢(把手) 深鉢(口縁部・底部)	縄文土器	縄文	不明	—		B3G	8905	1-1 16-118 16-100 16-121	2	A
082 ~087	鉢(口縁部) 深鉢(口縁部・底部)	縄文土器	縄文	不明	—		B4G	8905	1-4・7 12-2・13 13-30・48 15-115 16-94・104 16-119	2	A
088	土製円盤	縄文土器	縄文	不明	最大径4.3cm、厚さ0.8cm		B8G	8905	17-122	2	A
089 ~092	深鉢(口縁部・底部)	縄文土器	縄文	不明	—		C2G	8905	11-82 11-83 11-87 16-120	2	A
093	深鉢(口縁部)	縄文土器	縄文	不明	—		C3G	8905	9-66 13-38	2	A
094	深鉢(口縁部・底部) 土製円盤(102)	縄文土器	縄文	不明	—		C4G	8905	8-62 14-66 17-124	2	A
095 ~102	深鉢(口縁部・底部) 土製円盤(102)	縄文土器	縄文	不明	—		C5G	8905	4-32 13-28・51 13-98 14-67 13-100・101 16-106・109 14-110・111	2	A
103	鉢(口縁部)	縄文土器	縄文	不明	—		C10G	8905	17-125		A
104	深鉢(口縁部)	縄文土器	縄文	不明	—		D4G	8905	11-78 17-128	2	A

来迎寺遺跡 I 種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号 Fig.番号	報告書掲載 コンテナ番号	A・Bの別
R K J 105 ~115	鉢 (口縁部) 深鉢 (口縁部~胴部)	縄文土器	縄文	不明	—	—	D5G	8812	5-35 11-77・81 84・85・86 13-95・97 102・103 14-108	12-9・14 20-22 13-31・50 14-55・57 60・63	A
116 ~120	鉢 (胴部) 深鉢 (口縁部)	縄文土器	縄文	不明	—	—	確調トレンチ	8812	2-15 3-22・23 10-71・72 14-69・70	12-3 13-27・41 14-69・70	A
121・122 123 ~221	深鉢 (口縁部) 不明 (口縁部~底部 ~底部)	縄文土器 縄文土器	縄文 縄文	不明 不明	— —	— —	包含層 DM	8905 8904 ~8905	2-16, 10-73 —	13-26, 14-52 —	A B
224 ~230	石鏃	打製石器	縄文	一部欠損 ~完形	長さ2.1cm~2.8cm 幅1.4cm~2.3cm 厚さ0.3cm~0.7cm 重さ0.7g~4.2g	—	C5G DM385 DM314 E2G・D2G DM112・D5G	8904	18-133・134 138・137 138・139 19-139・140	17-1~7	A
231	尖頭器	打製石器	縄文	先端部 欠損	長さ6.25cm, 幅1.8cm 厚さ1.0cm, 重さ13.4g	—	DM379	8904	18-130	17-8	A
232 233	石匙	打製石器	縄文	不明 一部欠損	長さ2.6~2.5cm 幅1.6~2.5cm 厚さ0.6~0.7cm 重さ3.0~4.0g	—	DM63・B2G	8904	26-197・198	17-9・10	A
234 ~236	つまみ形石器	打製石器	縄文	不明	長さ1.8~2.6cm 幅1.6~2.5cm 厚さ0.5~0.7cm 重さ0.8~4.0g	—	DM63・B2G	8904	21-155・156	18-11~13	A
237 238	不明	打製石器	縄文	不明	長さ2.35~2.8cm 幅1.5~2.5cm 厚さ0.5cm 重さ1.5~2.5g	—	D5G	8904	20-153・154	18-14	A
239	縦長剥片	打製石器	縄文	不明	長さ1.9cm, 幅1.3cm 厚さ0.4cm, 重さ0.7g	—	DM92	8904	20-148	18-15	A
240 241	石核 剥片	— —	縄文 縄文	— —	長さ2.4cm, 幅4.1cm, 重さ16g 長さ2.4cm, 幅1.8cm 厚さ0.7cm, 重さ4.1g	— —	DM479 DM30	8905 8904	21-158 18-135	18-16 18-17	A A

来迎寺遺跡 I 種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	方法	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
RKJ 242 ~254	縦長剥片	打製石器	縄文	—	長さ2.9~4.4cm 幅1.5~2.8cm 厚さ0.35~0.8cm 重さ2.2~7.4g	DM30・309 248・80・51 338・481 A6G, B5G DM361・135 31・81 DM418	8904 ~8905	20-144~147 149~152 18-131 21-159~162 164	18-18 19-19~29	4	A
255	剥片	—	縄文	—	長さ3.7cm, 幅4.1cm 厚さ1.2cm, 重さ14.9g	DM234	8904	21-163		4	A
256 ~260	削器	打製石器	縄文	—	長さ3.0~4.7cm 幅1.9~3.2cm 厚さ0.9~1.9cm 重さ4.0~15.9g	DM224・99 C2G DM168・153	8904	18-132 19-141 22-170~172	20-30~34	4	A
261 ~263	剥片	—	縄文	—	長さ2.45~5.0cm 幅1.9~4.3cm 厚さ0.5~1.7cm 重さ3.8~30.3g	DM228・387 458	8905	21-165 22-173 26-196	20-35	4	A
264	石核	—	縄文	—	長さ3.8cm, 幅2.7cm 厚さ1.75cm, 重さ14.9g	DM372	8904	22-174	20-36	4	A
265 266	剥片	—	縄文	—	長さ2.9~4.1cm 幅2.9~3.9cm 厚さ1.0cm 重さ9.8~12.1g	DM372・414	8904	22-174・175	20-36	4	A
267 ~271	削器	打製石器	縄文	不明	長さ9.2~6.1cm 幅3.5~11.1cm 厚さ1.2~2.4cm 重さ15.6~51.7g	S D002 B2G, D2G DM200・444 89	8904	21-37・38 22-39・40 23-45	—	4	A
272 ~286	剥片	—	縄文	不明	長さ3.7~11.0cm 幅4.0~8.0cm 厚さ1.2~2.4cm	DM231・26 233・142 310・133 230・134 192・19	8812 8904	23-177~182 22-166・168 24-183・184 186・187 25-189~191	23-43・44 22-41・42 25-48・50	4	A

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号 Fig.番号	報告書掲載 写真番号	コナテナ番号	A・Bの別
R K J 287 ~290	石核	—	縄文	—	長さ5.0~13.6cm 幅4.3~9.6cm 厚さ2.1~3.3cm	DM35・253 S D002 C 3G, 包含層 S K071	8904	24-185・188 25-192・193 26-195	26-51・52 27-57	4	A
291	磨石	—	縄文	不明	長さ12.3cm, 幅9.6cm, 厚さ3.3cm	S K071	8905	26-195	27-57	4	A
292	局部磨製石斧	—	縄文	100	長さ11.9cm, 幅4.8cm, 厚さ3.0cm	S K056	8904	28-204	—	4	A
293	局部磨製石斧	—	縄文	100	長さ12.3cm, 幅6.4cm, 厚さ2.5cm	D M198	8904	28-205	27-53	4	A
294	石斧	磨製石器	縄文	100	長さ12.5cm, 幅5.5cm, 厚さ2.8cm	D M413	8905	27-203	27-54	4	A
295	石斧	磨製石器	縄文	不明	長さ6.5cm, 幅4.7cm, 厚さ2.3cm	D M36	8904	27-201	27-55	4	A
296	石斧	磨製石器	縄文	基部欠損	長さ7.6cm, 幅4.5cm, 厚さ1.5cm	C 2G	8904	27-200	27-56	4	A
297 ~497	チップ・剥片 石斧・礫等	—	縄文	—	—	—	8904 ~8905	—	—	5	B
498	石包丁	磨製石器	弥生	50	長さ7.8cm, 幅6.2cm, 厚さ0.6cm	C 7G	8905	27-119	34-22	5	A
499	石斧	磨製石器	弥生	不明	長さ14.8cm, 幅4.9cm, 厚さ3.8cm	C 7G	8904	27-202	34-23	5	A
500	石斧	磨製石器	弥生	不明	長さ13.6cm, 幅4.8cm, 厚さ1.9cm	D 6G	8904	28-207	34-24	5	A
501	石斧	磨製石器	弥生	不明	長さ5.4cm	D M202	8904	26-194	34-25	5	A
502	砥石	—	不明	不明	—	C 2G	8905	14-109	34-27	5	A
503	軽石	—	不明	不明	厚さ2.8cm	包含層	8904	28-205	—	5	A
504	投擲	土製品	弥生	70	長さ4.8cm, 幅2.6cm, 厚さ1.9cm	F 5G	8905	29-212	34-26	6	A
505	壺（口縁部）	弥生土器	弥生	不明	口径29.7cm	S K016	8905	34-230	29-1	6	A
506 ~513	甕（口縁部底部）	弥生土器	弥生	不明	口径22.0~30.0cm 底径6.0~8.8cm	S K016 D 4G S K091 B 7G, 包含層	8905	34-230 29-208 35-233 35-234 32-222 33-225 31-218 30-213 32-224	31-1~4 33-1~3~4~6	6	A
514 ~515	壺（口縁部）	弥生土器	弥生	不明	口径14.6~28.1cm	B 7G, 包含層	8904 8905	33-225 30-214 29-210	33-2~5~7	6	A

来迎寺遺跡 I 種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
R K J 517	甕 (口縁部)	弥生土器	弥生	不明	口径15.0cm	C7G	8905	35-238	33-8	6	A
518~520	器台	弥生土器	弥生	不明	底径11.0~12.2cm	B7G・D10G	8905	35-236・235 237	33-9~11	6	A
521	高杯	弥生土器	弥生	不明	—	D10G	8905	29-211	33-12	6	A
522	甕 (口縁部底部)	弥生土器	弥生	不明	底径8.2~10.0cm	D4G・B7G	8904	34-221	33-13	6	A
~530						包含層 D10G・46G 31-217 32-221 31-216 29-209 31-215	8905	34-222 31-219	34-14~21		
531	杯	須恵器	奈良	20	口径11.8cm, 底径7.8cm, 器高4.1cm	S B092	8905	32-223	36-1	6	A
532	小皿	土師器	平安	70~100	口径8.8~9.1cm 底径6.5~7.5cm 器高1.2~1.4cm	S D005	8905	33-227~228	38-1~3	6	A
~534											

来迎寺遺跡 I 種

佐賀市文化財調査報告書第27集

来迎寺遺跡

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 日之出印刷(株)
佐賀市高木瀬西6丁目11-5